令和 2 年10月23日発行

日本大学国際関係学部 校友会々報

第 51 号

虹のシザース（桜アリーナ南側）

静岡県三島市文教町 2-31-145
日本大学国際関係学部
校　友　会

令和二年度　常任幹事会・幹事会

令和二年六月六日（土）十六時〇〇分から、常任幹事会及び十六時三十分から幹事会を国際関係学部本校舎十五号館四階一五四六教室において開催される予定でしたが、今般の新型コロナウイルスの感染リスク拡大の影響を鑑み、第一議事から第十二議事までの議事資料の送付による文書書類議案とし可否方法で審議し承認となった。

一、令和元年度事業報告では、国際関係学部校友会会長賞及び優秀賞は卒業生七名と在学生四名に授与された。授与式は卒業生及び在学生共新型コロナウイルス感染の影響のため中止となり賞状等郵送となった。。

二、令和元年度決算報告では、決算額は各項目のとおりとなりその内の通信運搬費、雑費の二項目の支出額が多かったのは通信運搬費での会報発送代。雑費でのホームカミングデーチラシ印刷代、日大体育部関係、総会・懇親会二次会負担費等が増額となった。

◎会計監査を藤本、木村両氏に令和二年四月二六日に実施して頂いた。

三、令和二年度事業計画では国際関係学部校友会会長賞及び優秀賞の推薦を始めとして前年度とほぼ同様の事業となるが本年度は新入生入学祝として五年間続けて来た携帯用ストラップからメタルクラフトに変更と十年間続けて来た就職合同面接会を中止した二件となった。

四、令和二年度予算では、令和元年度の決算額を基礎として継続して実施可能な事業費として計上となった。

五、令和二年度新幹事等では、今年度新役員として押見恵美子幹事が常任幹事へ、国際関係学部から石川真世以下九名、教養・学部から室伏伯士一名、商経科同窓会から日馬孝昌一名、桜栄会から植松あいか以下三名で計十四名の新役員が増員された。

六、役員改選では、現役員の任期が令和三年三月三一日付で満了となりますが、事務局への後任者の推薦等が有りませんので現役員の再任となり、任期は令和三年四月一日から令和六年三月三一日の三年間となった。

七、物産展実行委員では、現委員の継続とし推薦者がいればその都度委員会で追加承認とする。

八、ホームカミングデー実行委員では、現委員の継続とし推薦者がいればその都度委員会で追加承認とする。

九、国際関係学部校友会関係物故者では、平成三十年八月から令和二年六月までに事務局に連絡を頂いた会員を一覧表とした。

十、国際関係学部校友会正会員加入者名簿では、令和二年三月末日の国際関係学部校友会正会員加入者を本部校友会事務局から頂き一覧表にした。会長からのお願い文も添付しておきましたので令和二年度も引き続き継続願いたい。また新規加入者は振込用紙が「桜縁」に添付されています。用紙必要な方は事務局まで連絡ください。

十一、功労者表彰では、令和元年十一月で参与の岩崎一雄氏が満八十歳となりましたので総会時に表彰をしたい。

十二、会報（第五一号）原稿依頼者として、横山会長・濱田副会長・野中顧問・西野・多田・松原各常任幹事・植田山形県支部長の方々に原稿依頼をしたい。

「三期目を思う」

国際関係学部校友会会長
横山雅人

校友の皆様におかれましては、コロナ禍の中いかがお過ごしでしょうか？平素は国際関係学部校友会の活動に対しご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、校友会も通常の活動ができない状況にありますが、七月三日には令和二年度校友会役員総会が行われ、すべての議案が原案どおり承認されました。役員任期満了に伴う役員改選も行われ、田中会長が満場一致で再選（六選）されました。国際関係学部校友会では幹事会を文書幹事会とさせていただき、審議事項はすべて承認されました。令和二年度の国際関係学部校友会総会並びに懇親会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とさせていただき、会則第五章第十二条第三項（常任幹事会及び幹事会）をもって総会にかえるにより承認となりました。これにより役員改選に関し私が会長に選任され三期目を続投させていただくことになりました。この一期三年は今までの活動をチェックし、より充実したものにして行きたいと考えております。私が六年前に会長に就いて、正会員登録を二〇二〇年には一〇〇人にしようという「正会員一〇〇キャンペーン」を発信してきましたが六〇人弱と当初から微増となりそうな状況です。在学四年生を対象とした就職応援のための合同企業面接会開催はここ数年の実績を考えしばらく中止ということになりました。大学祭に合わせて行っているホームカミングデーは校友がほとんど参加していない状況ですが、三嶋大祭りに合わせて行っているホームカミングデー三嶋大祭りバージョンは日大三島高校同窓会三島支部との合同開催ということもあり賑わいの中で開催できています。また、二〇一六年五月から始めた、いちょう並木きずな清掃は四年が経ち、八月で四十一回目を迎えました。（雨天中止やコロナウイルス感染拡大防止で中止あり）他の活動も通しての課題はどのようにしたら校友の皆様に参加や興味をもっていただけるかということです。特にコロナ禍で活動ができない今の環境の中で皆様に発信することの難しさを感じています。今までは直接お会いして伝える機会が開講式や幹事会、総会、ホームカミングデー、卒業記念パーティー等ありましたが、現状では難しい状況です。会報は今年度も発行しますがすべての校友に届きません。そこで交流の手段としてホームページやＳＮＳの活用がポイントになってくると考えています。国際関係学部校友会の中にある国際関係学部同窓会は総会・懇親会の案内をホームページに掲載し、ホームページ上で参加申込をするスタイルに変えました。ここで問題になってくるのがいかに多くの校友の皆様にホームページを観ていただくかということです。卒業記念パーティーでは記念品の中にホームページのアドレスを同封しＰＲしています。毎年発行する会報にも載せています。とても難しい取り組みですがホームページの充実も含め知恵を絞って考えていきたいと思います。また、連絡手段としてメールアドレスを登録させていただくお願いもしようと思っています。この会報をご覧の皆様、この機会にぜひ国際関係学部校友会のホームページをご覧いただきたいと思います。そしてお仲間にも広げていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。前述のきずな清掃も校友の交流の手段として、地域貢献との一石二鳥の考えで始めました。現在は校友、高校同窓会の同窓生、現役高校生徒会の生徒で行いＳＮＳに発信しています。以前は在学大学生のサークルも参加してくれていました。将来的にはオール三島キャンパスでの活動に拡げていきたいと思っています。高校生も大学生も卒業後に機会があれば寄ってほしいと思いますし、校友会を担ってくれたら最高です。

最後になりますが、皆様のご健勝、ご活躍とコロナウイルスの終息を祈念し、ご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「校友会会報挨拶」

国際関係学部学部長
渡邊　武一郎

日に日に虫の声が聞こえだす季節となりました。校友会の皆様に於かれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、日本大学国際関係学部、短期大学部の研究・教育活動に対し、ご支援、ご助力賜りまして、誠に有難うございます。

今年度は国際関係学部に六六九名、短期大学部ビジネス教養学科に一〇八名、食物栄養学科に九〇名、専攻科食物栄養専攻に一四名、大学院国際関係研究科には七名の新入生を迎えることができました。これに付属三島高等学校、中学校の新一年生を加えると合わせて一，六六一名となり、三島キャンパスに在籍する生徒、学生、大学院生は約五，〇〇〇人となります。静岡県有数の教育・研究センターとなっています。

この四月からは、国際関係学部に会計学の建宮務先生、国際経済学の小田正規先生、日本語教授法の本間祥子先生、世界近現代史の安酸香織先生、ドイツ語の藁科智恵先生、国際関係史の笠原孝太先生、情報論のG．オリビエ先生、英語のD．オリベイラ先生とたくさんの新しい先生方をお迎えしました。

新型コロナウィルス感染症の感染防止のため、今年度の大学の入学式、開講式他は中止とし、前学期の授業は基本的にすべてオンラインとなりました。この状況に対して、国際関係学部では全ての学生に学習環境補助費を給付するとともに、希望者全員にパソコンの無償貸与しオンライン授業の実施体制を整えました。ただ、急にオンラインでの授業をする側の先生方にとっては、不慣れな授業形態への対応のみならず、その準備に相当の時間と手間が掛かったようで、先生方のご尽力に感謝しています。

新型コロナウィルス感染症は

「新任のご挨拶」

国際関係学部事務局長
相良浩三

日本大学国際関係学部校友会・短期大学部校友会の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。また、校友の皆様方には、私ども国際関係学部・短期大学部（三島校舎）に対する平素のご支援・お力添えに、深く感謝申し上げるとともに、厚くお礼申し上げます。

私は、令和元年十月一日付けの人事異動により、薬学部から国際関係学部の事務局次長として着任いたしました。その後、令和元年十二月十一日付けで、前任の岡本敬史事務局長の後任として国際関係学部の事務局長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、現在新型コロナウイルス感染症が世界的な規模で感染拡大しております。我が国でも四月七日に感染拡大に伴う緊急事態宣言が発出され、その後解除されたものの依然として収束の兆しは見えません。こうした中、本学も多大な影響を受けております。ここで国際関係学部・短期大学部（三島校舎）の状況及び対応についてお話しいたします。

入学試験は、キャンパス・校舎入口での検温・消毒などを徹底した上で実施いたしました。しかし、令和元年度卒業式、学位記・修了証書等伝達式は、当初有楽町よみうりホールで開催を予定しておりましたが、規模を縮小して三島駅北口校舎において学位記・修了証書等の伝達のみを行いました。新年度が始まり、例年通りであれば新入生をキャンパスに迎え入れ、ガイダンス等の行事が数多予定されていましたが、新入生の健康と安全を第一と考え、入学式、開講式は中止といたしました。前学期授業開始日も五月十一日となり、コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、原則オンライン授業が実施されることとなりました。

このような状況において、日本大学は学生への支援を行うことを決定いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大により、学費支弁が困難となった学生一万人を対象に年間十万円の「日本大学創立一三〇周年記念奨学金（第三種）」の給付制度を創設しました。次に、オンライン授業の実施に伴う学修環境整備補助費として、通学過程の全学生に対して一律三万円の給付を行うこととし、本学ではほとんどの学費支弁者に給付が完了しております。また、学生がオンライン授業に対応できるよう、パソコンやタブレット端末を用意できない学生へのパソコンの無償貸与、インターネットの環境が整っていない学生に対しては、一部教室を開放して、大学内でオンライン授業を受けられるようにいたしました。

その他の支援としましては、学費の納入時期の猶予、在学生の各種証明書の申請手続の簡素化及び発行手数料・郵送料の免除などを行っています。また、新型コロナウイルス感染症の影響による心身の疲れや不安を抱えている学生に対しては、相談窓口を開設し必要に応じて面談等を行っております。

後学期については、原則としてオンライン授業を継続しますが、実験・実習を伴う授業、ゼミナール、卒業論文など一部の科目においては、感染防止対策を徹底した上で、キャンパスに入構しての対面授業をオンライン授業と併用しながら開始します。

昨年からの大きな動きということで、国際関係学部の長年の懸案であった本館と図書館の新築計画の進展状況について報告いたします。昨年、重要事業整備計画として申請していた「国際関係学部図書館兼管理棟（仮称）新築工事」が十二月の理事会で承認されました。これを受けて今後は、「基本構想書」を基に新校舎建設委員会等で検討を重ね、令和三年度には基本設計に着手していくこととなります。

このように、私ども国際関係学部・短期大学部（三島校舎）は、学生の教育、学生生活環境の充実に向けて教職員一丸となって取り組んでまいりますので、校友会の皆様には今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びとなりますが、国際関係学部校友会・短期大学部校友会の益々のご発展と校友の皆様方のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

「青春の三島キャンパス」

国際関係学部校友会副会長
濱田義之

新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延している現在、校友の皆様には色々な影響があろうかと存じますが、いかがお過ごしでしょうか。

私は昭和四五年（一九七〇年）日大藤沢高校から法学部に入学し、教養課程の一年間を三島キャンパスで学ばせていただきました。

「わが校友会によせて」

国際関係学部・短大三島校友会
山形県支部長
植田　美由紀

先日、校友会のホームページで昭和四六年八月一日発行の日本大学三島同窓会々報の創刊号を目にし、同窓会奨学金授与者の中に私の名前が記されており当時の感激を新たにしました。そうしたご縁から校友会の幹事、常任幹事を経て平成二一年（二〇〇九年）副会長に就任させていただき今日に至っております。

私の入学当時は大学紛争の終末期でキャンパスの出入口はロックアウトされ、入場の際には正面入口の通用門で学生証を職員に提示しなければならないという現在では考えられない緊迫感がありましたが、キャンパス内には大きな青春が広がっていました。

特に大学祭の開催に携わったことが今でも鮮明によみがえってきます。大学祭の開催日程は決まっていたのですが、大学紛争の影響で本当に開催できるのか危惧されており、各クラスの連絡委員（クラ連）やクラブの連合体である学友会のメンバーを中心に大学祭実行委員会が結成され、大学当局と交渉して正式に開催が決定されたのです。

学生のための大学祭ですから学生の手ですべてを準備していかなければならず、実行委員会では学生間の任務分担の調整をはじめ、大学当局、各役所、関係業者、商店街、地元住民との交渉など初めての経験で戸惑うことが多かったのが現実でした。私も実行委員の一員として先輩や仲間たちと一緒に働き、ついに前夜祭を迎えてシンボルタワーを照らすライトに灯が入った時には、友人宅に泊まり込んでハードな日々を送ったことを思い出し安堵した気持ちでいっぱいでした。大学祭当日は晴天に恵まれ、学生はもちろん、市民や学生の家族など多数の方々が来場され盛大に開催され無事に終了することができました。

あっという間の一年間の三島キャンパス生活は終了し、二年次からは三崎町キャンパスへと移行していったのですが、当時の教職員、先輩、友人たちとの交流は五〇年近く経った現在も休むことなく継続しております。

校友会の会議等や私用で年間十回近く三島の地を訪れていますが、三島駅から三島キャンパスまで続く銀杏並木を通るたびにわが青春の原点は三島キャンパスとともにあるという思いを一層強くしています。

校友会の益々の発展と、校友の皆様がお健やかにお過ごしされますことを心よりお祈り申し上げます。

日本大学国際関係学部校友会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、山形県支部活動に対して深いご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、かつてない新・生活様式の継続により様々なひずみが生じていることと存じますが、いかがお過ごしでしょうか。

私たち国際関係学部・短大三島校友会山形県支部は、お陰さまで昨年十一月、第七回目の総会を無事に終了することができました。総会開催にあたり、ご協力いただきました皆さまに厚くお礼申し上げる次第です。加えて、待望しておりました「校友会旗」を贈呈くださりましてありがとう存じました。伝統ある文字を染め抜いた上品なピンク地の仕上がりは、校友会員のモチベーションアップにつながっております。これからも初心を忘れず、しっかり成長しながら歩んでまいりたいと思います。

振り返りますと創設時、国際関係学部校友会が存在するのは山形県のみ、と先達者にお聴きし、不安と期待が入り混じる中での校友会デビューでした。山形県支部は、学部ごとにも校友会が組織されており、わが学部設立により、全学部校友会が揃った形となりました。その設立にあたり、同じ三島キャンパスで学んだ短期大学部も国際関係学部と一緒にしていただいたという経緯があり、現在に至っております。

国際関係学部は比較的新しい学部ですが、山形県の校友会メンバーは、数百名が存在していると推察しております。しかしながら、地元へ戻って活躍している会員は少数であり、年代的にも若い層が圧倒的に多く、公私ともに多忙な時期にあります。会員拡充を図る、という活動基本方針を当初から掲げ、総会の案内ハガキにはQRコードを貼用しホームページで情報を共有する等、地道で無理のない活動に取り組んでおります。さらには、「いちょう並木きずな清掃」の同時間帯に合わせた清掃活動を、地元で継続している会員もおります。このように、地域貢献と校友会委員の親交を深めることは、生涯学習として確実に活かされているのではないでしょうか。人生における貴重な青年期の真っただ中を三島で過ごし、学友との学びや遊びすべての体験が何物にも代えがたい財産となり、現在に通じていることは誰もが感じていることでしょう。

現代は予測不可能であるといわれ、多角的な側面や性質から社会は常に変容していくように感じます。先が見通せない社会においては、人間への信頼こそが、前進するために何よりも大切な要因ではないかと考えます。そのように再確認しながら、引き続き、楽しく校友会活動に励んでまいりたいと思っております。

社会は、グローバル化時代といわれて久しく経ちますが、日本大学国際関係学部の更なる発展を御祈願申し上げます。

最後に、日本大学校友会ならびに校友の皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

支部旗贈呈

「回想録（青春テンコ盛り三島キャンパス）」

国際関係学部校友会常任幹事
西野和衛

霊峰富士を仰ぎ観て、春には桜が、初夏には瑞々しい木々の若葉が、秋には銀杏並木が迎えてくれる三島キャンパス。

正門を入って右側四号館一階には、空き時間を部室で過ごす学生の熱気で溢れていました。校舎東隅、四一一号室の隣がクラス委員連絡会議室。次が落研、書道、箏曲等の文化部室。学生課、中央階段を挟んで学友会、放送部。隣が四一六号室。私が所属した経研（経済学研究会）、会研、商研、ＥＳＳ、心研、地理研、旅研、食研、コンピュータ等の学術部室。経研キャビネット内には会報（おいこすのもす）ギリシャ語で経済と言う意味。にＰ系の学生岩手医大生が書いた文書がありその重さに衝撃を受けた思い出があります。各テーブルにはアルミ色付き灰皿があり何時も吸い殻が盛りに溢れていました。四一七号室がマンドリン、軽音、美術部、演劇等が入りその隣が階段とトイレです。中央階段を上り前庭芝生を見て右が講師室。そこに聴講カードが何色か用意され抜き打ちに記入させられましたが、学生も抜け目なく代返、代筆・・。階段左が商経科研究室で以前「森繁久彌」主演映画を撮られたそうです。三階、四階が受講教室です。芝生前庭右に本館教務課。その奥に憧れ女子寮。希望の森を抜け家政科、文科校舎があり思索の森と続き池の横に木造でモダンな記念館。戻って七号館。高校校舎を抜けて工科校舎、体育系部室があり南へ出て八号館大講堂、そして体育館で正門に戻るキャンパスです。

春入学直ぐ、全学ピクニックで五湖巡り、初夏運動会、黄色の絨毯踏む晩秋十一月、前夜祭から始まる大学祭。工科学生主導で芝生通路に人文字を象った塔でお客様をお出迎えです。家政科のバザー、学術、文化部の展示、クラス屋台。三島市民ＯＢ、ＯＧとの交流懇談等々。Ｌ系、商経、商経二部、家政科、文科、工科が一体と成った三島でしか味わえない時間、空間の共有でした。

そこに三島農兵節がエレキギターから鳴り響きます。「寺内タケシとジャパニーズ」の野外ステージ。剣の舞、津軽じょんがら節、パイプライン、レッツＧＯ！運命。五千人以上がステージに釘付けでした。

実は私は、開演前の打ち合わせで寺内さんからステージを高く上げて貰いたい旨依頼があり四四一号室から狭い外階段使い教壇を下ろして対応しました。ステージ裏で聴く演奏は凄いギターテクニックとド迫力に圧倒されっぱなしでした。六十八歳に成った私にとって三島キャンパスで過ごした時間は、東京経済学部で過ごした何十倍も濃く圧縮された時間でした。又、自分に自信と勇気を育ててくれました。今、コロナ過で不当な誹謗中傷を受ける世の中ですが皆進むベクトルを一つに出来た素敵な学園とロケーションを持つ三島に感謝しています。

「第五十一号発刊に寄せて」

国際関係学部校友会常任幹事
多田清吾

「校友会々報」以前の「同窓会々報」創刊の翌年度に短期大学に入学し、今年で丁度五十年が過ぎました。

三島生まれ三島育ちの私は、日大紛争収束間際、四号館隣の三島北中学校に在学中で、兵舎跡の校舎の間から学生と機動隊が銀杏並木通りの道路いっぱいに広がり、投石や衝突を繰り広げている様をデモの理由もわからず見物していたことを思い出します。

短大に入学してから、学園祭に全共闘が乱入してきた折には体育団体の武道系の部員たちを集め、校門の外まで押し出したこともありました。

短大卒業後、経済学部へ編入学し、三島から経済学部のある水道橋まで通う毎日でしたが、登下校中あちらこちらでデモが見られ、経済学部も紛争が完全には終結しておらず、校舎の入り口には職員が数名いて学生証を提示してからでないと入校できませんでした。

また、時代はオイルショックに差し掛かり、入学時には四十五円だったガソリン代も卒業時には倍近くに値上がりし、ガソリンスタンドの日曜日休業やテレビの深夜放送の休止、商業施設の営業時間短縮、自動車メーカーは一斉にモータースポーツから撤退、鉄道は最終列車の繰り上げなどが行われ、石油危機は、エネルギーのみならず食料などの資源を海外からの輸入に依存することに不安を覚え、特に食料自給率向上へと傾斜させる契機の一つとなりました。

石油火力発電を見直し、日本は原子力発電所整備に向かい始めました。

学生時分には「水にお金を払う」ことなど夢にも思わず「中東では原油価格よりも水の方が高価らしい」という話を半信半疑で聞いていましたが、現在では日本でも水が普通に販売されるようになり、原子力発電所の廃止が叫ばれる昨今、半世紀の時の流れを感じています。

現在は新型コロナウイルスの影響で会議も書面議決、営業・受注もオンライン、セミナーもＷｅｂで展示会もオンライン開催等、不自由な社会となっていますが、学生諸君は前期に続き後期も原則オンライン授業だと聞き、新入生は授業は出来ても友達が出来ない状況で大変な年だと思いますが、限られた条件の中で最善を尽くして頂きたいと思います。

今、三島の湧き水は、例年以上の降雨の影響と富士山麓の工業地帯がコロナ対応で操業縮小しているため五十九年ぶりに豊富な湧水量となっています。

三島にお立ち寄りの際は楽寿園を始め湧水地の散策をお勧めします。

結びに、校友の皆様のご健康とご活躍を祈念申し上げます。

「校友会をもっと知ろうよ」

国際関係学部校友会常任幹事会
松原裕二

ご無沙汰しております。

国際関係学部の皆様、卒業された皆様、そして三島学園大学でのひと時を過ごされた方々も、お元気でお過ごしでしょうか。

国際関係学部の一期生で短大・L系の方々と過ごした私も、齢六十歳の還暦を越えました。

そう、三島学園大学の国際関係・短期大学部・短大工科(建築・機械)・商経科二部・L系一般教養(法学部・文理学部・経済学部・商学部一年次)を三島に在籍されていた皆様も、在校生の皆様も、思い出は様々でも校友会に参加してもう一度同じ時間を過ごした空気を感じてみませんか。私としては、在学中にはクラス委員連絡会議「クラ連」で大学祭準備委員の一員としても活動し、記念館で校友会の懇親会に招かれて、OB・OG・教職員 校友会員の想い・学生時代からの思い出を伺って、絆を考えたこともありました。三島学園大学で共有したあの4年間を経て始めて、国際関係学部ができ上がったのです。

卒業をしてから校友会員として、他学部とも交流もして、学生時代以上に日本大学とのつながりを感じています。

なかなか学生時代を振り返るのは難しいかもしれませんが、クラスメートと大学祭の「クラス参加」行事で活躍して・国際関係学部の初代のクラ連委員長を務めた深澤豊くん、オール日大体育祭に大いなる貢献協力をして・今は国際関係学部同窓会の委員長を担っている宮下公雄くん、クラ連総会で議長として多くの意見を交わした高野真一くん等、、と共に学生活動に携わった縁で、今も校友会に参加していることに感謝しています。

私の記憶では、三島駅前にマギーハウスという名のディスコがあってよく集まっていたり・サクセスという名のパブで夜景を見ながら語ったり、安いスナックCandyのカラオケで誰かがいつものサザンを歌っていた等、思い出を語り合う場ですが。。。

私が空手部に入部した一年生当時の大学祭では、日本大学本部の空手部に三島の演武へ参加していただいていましたが、顧問・OB諸先輩方が国際関係学部誕生を機会に自分達で運営していくというまとまった考えの元で、夏の合宿を中心にご指導・昇段試験をしていただき日本大学の精神に触れるようにもなりました。各部の活動は、短大・L系や三島から編入学された諸先輩に導いていただき、四年制学部の基礎が作られたものだと思っています。

特に、校友会に参加して印象に残っていることは、二〇〇七年仙台で行われた全日本大学女子駅伝に五年連続出場中の駅伝部の応援に、三島から仙台へ向かう貸切りバスへ浦和で同乗して行ったことです。日本大学校友会の仙台支部の皆様には、応援ポイントに私達も送ってもらい、共に旗を振りました。校友会の行事が各学部の団結を強くしていることを感じました。校友会は、今も駅伝部の応援をしていますし、毎年の予算には応援費が計上されています。

また、校友会では、卒業予定者に「就職合同面接会」を開催して、地元三島での就職斡旋を続けています。

このように国際関係学部の在り方や卒業後の進路にも、関わりをもっています。進路を導かれた方々や若手の方々にも、続けて校友会に参加していただき、新たな仕掛けも作ってより仲良くなっていきたいと思っています。

現在、三島学園の空気を知る国際関係学部三期生の横山雅人くんが校友会会長を務めていただいていますが、更に同窓会を融合し今後の卒業生とのつながりも強めて、国際関係出身者も校友会で多くの役割を果たす必要があります。そして三島学園出身の諸先輩方の作り上げた校友会を大きな組織に発展させるようご協力をお願い申し上げます。

校友会に参加してくださる方は、どうぞお越しください。ホームページやメール・LINE活用して気軽に参加していただければいいですね。校友会の皆様、教職員の皆様と共にいろんな意見を交わしてこれからも、国際関係学部の校友会・日本大学校友会の一員として学生を精神的にも支援し、誇りをもって歩みを続けていきましょう。

校友会の幹事会には、次回日程が合えば是非参加させて頂きますので、皆様にもよろしくお伝えください。

懲りずにお声掛け頂けると嬉しいです。お会いできるのを楽しみにしています。

「雑　感」

国際関係学部校友会顧問
野中美香

歴史上記録に残るであろう二〇二〇年。私たちの人生においてパンデミックを体験するとはまさか夢にも思わなかったことが現実に起きたのである。ウイルスの脅威におびえ自然災害のすさまじさに圧倒され安心という文字がとても遠く感じられ、人間の弱さ儚さを思い知らされた一年であった。人々は生き方そのものを問われ、生活スタイルの見直しや働き方改革などを余儀なく迫られることとなった。大学においても同様だ。学ぶことの本質や意義を見直す機会となったことは事実であろう。アレクサに聞けば何でも応えてくれるそんな時代、今までの教わるというスタイルではなく、自身で考え展開していく。想像と創造。自由な発想と実行力を身に着けることが何より肝要なことと感じている。

校友会優秀賞受賞者

国際教養学科四年
氏家美里

日本大学国際関係学部に入学し、早くも三年半が過ぎ、最後の学生生活も残り半年となりました。私が昨年印象強く残っていることは二つあります。一つ目は北方四島交流（ビザなし交流）に参加したこと、二つ目は富士山麓A&Sフェアにて国際分野で最優秀賞をいただいたことです。そこでは「北方領土問題を考える～国後島を訪問して～」と題し、これからの北方領土問題解決に向けた提案を発表しました。

私は安元隆子教授のゼミナールでロシアについて学んでいます。特に北方領土問題は北海道出身の私にとって、興味深い項目でした。北海道と北方領土は地理的に近く、深い関係にあります。しかし、私はこれまでこの問題について考えたことが少なかったのです。そのため、地元を理解するという面でもこの問題についてもっと知りたいと思うようになりました。

昨年八月、北方四島交流で国後島の視察に参加しました。ロシア住民と文化交流などを行いました。実際に現地に行くことでロシア住民の思いや、国後島の自然の美しさを肌で感じることができました。机上の学習だけではできない貴重な経験ができました。その経験を基に、昨年十一月、富士山麓A&Sフェア（沼津市で行われた研究発表会）に参加しました。発表資料作成のために学生に北方領土に関するアンケートを行いました。その結果、予想以上に北方領土問題への関心が高く、驚きました。このように領土問題解決のためには、一人一人がこの問題を他人事とせず、関心を向け、理解することが必要だと思います。そして、若い世代こそが領土問題解決の思いを引き継いでいくことが大切だと思います。発表を聞いた方が少しでもこの問題について考える機会となったなら嬉しく思います。そのため、発表資料は多くの方の目に留まるよう、レイアウトや配色などにもこだわりました。また、発表は審査員と来場者に向け、三分という限られた時間の中でしなくてはならず、そのための練習も行いました。発表に向けた努力が最優秀賞という結果となって表れ、本当に嬉しく思います。

私はこのような貴重な経験ができ、有意義な学生生活を送れ、幸せに思います。大学に送り出してくれた両親や、日頃ご指導くださる安元先生には感謝しかありません。この経験をこれからの糧とし、残りの学生生活を悔いのないよう過ごしていきたいです。

国際総合政策学科四年
高田涼太朗

私が日本大学国際関係学部に進学して、早三年の月日が過ぎました。私の大学生活を振り返ると、周りの方々のおかげでとても充実した日々を過ごさせていただいたように感じます。中でも安元ゼミナールで活動した日々は、とても貴重なものになりました。

安元ゼミナールはロシアの文化や歴史を勉強し、日露交流をテーマに活動するゼミナールです。それまで、ロシアのことについて全く知りませんでしたが、私がゼミを選ぶ際に、当時盛んに報道されていた北方領土問題をもっと知りたいという思いから、ゼミナールに所属しました。それから、安元先生の指導の元、たくさんのことを学ぶ事ができました。ロシアの近現代史はもちろん、ロシアの文化や、実際にサンクトペテルブルクに赴き、現地の学生に日本文化を広める活動をすることもできました。また、沼津の戸田にあるヘダ号の話を知り、それを日本やロシアに広める活動を行いました。沼津出身の私を含め、子どもたちの、ヘダ号に対する認知度が低いことに対して、すごろくや福笑いを作成し、私たちの前の代の先輩方が作ってくださった絵本やペーパークラフトと共に子どもたちに広められたのは、とてもいい経験になりました。

また、北方領土研究の一環として、北海道の根室に行き、当時の元島民の貴重な話を聞くことができたり、現地の様子を実際に見たりすることで、北方領土を身近に感じることができました。それらの活動が認められ、外務省管轄のもと、通常渡航が制限されている国後島へ実際に視察に行くことができたのは、先生や、ゼミナールの仲間たちがいなければできなかったことです。そこで現地のロシア住民の方々と交流し、彼らの意見や、思いを知ることができたのは、自分の価値観や視野を広げる非常に良い経験になりました。また、日本では報道されない現地の発展の様子などを知ることができました。それらの得た情報をまとめて、北方領土問題のこれからについて考察した論文を富士山麓アカデミック&サイエンスフェアで発表し、国際部門で最優秀賞を得ることが出来たのは、一重に私と一緒に国後島へ行ったゼミ生のおかげです。

このように。私の大学生活は、周りの方々に助けられて過ごさせていただいたという風に思います。こうして得られた貴重な経験を、残り少ない学生生活、またこれから始まる社会人生活において、活かしていきたいという風に思います。

国際総合政策学科三年
星川ひなの

日本大学の国際関係学部に進学し、本部のゴルフ部に所属してから早三年目に突入しました。昨年の八月は、入学前から目標に立てていた日本女子学生ゴルフ選

手権で優勝を飾ることができました。兵庫県の小野グランドカントリークラブで開催されましたこの大会は、一昨年一打差の二位で涙を飲んだ大会でした。翌年は絶対に優勝すると心に誓っていた試合で優勝できたことは、私の大学生活において大きな自信に繋がったと感じています。最終日の最終ホールまで一打を争う展開で勝利を掴めたのは、今までの努力が実ったと思える幸せな瞬間でした。

昨シーズンにおいて、私が忘れられない大会が十月に千葉カントリークラブで行われました。団体戦の信夫杯です。前日まで行われていました個人戦の朝日杯で優勝することができ、私自身調子が良かったので、団体戦もチームに貢献したいという気持ちいっぱいで挑んだ試合になりました。一年生の頃からレギュラーとして試合に出場させて頂きながら、全国大会でまだ勝利したことがなかったので、チーム全体で意識が高かったと感じられました。その結果私たちはライバル校を押し切り、優勝することができました。初めてチームのメンバーと嬉し涙を流し、これからのゴルフ人生でも忘れられない大会になりました。

今年は、コロナウイルスの影響で学生の試合がほとんどなくなってしまい、今年卒業される先輩方と全ての試合で優勝することを目標に掲げていたので、とても残念でした。ですが、今まで当たり前のように毎年多くの試合に出場できていたことがいかに幸せだったか痛感し、改めて感謝の気持ちを持つことができました。この時間を活用し、自分のゴルフを見つめ直し、基礎から土台をしっかり作ることに取り組んでいます。

私は、競技ゴルフというスポーツを通じて様々な経験をさせて頂いています。本学の監督やチームメイトを始めゴルフ部に携わっておられる方々には感謝しきれません。この気持ちを来年は個人戦、団体戦ともに結果という形で恩返ししたいと思っています。今後とも競技のみならず、学業の面においても精進しますので、ご支援の程、宜しくお願い致します。

国際総合政策学科四年
黒岩 涼汰

私が当学部に入学してから四年が経ち、同じく男子バレーボール部としての活動も四年目になります。一、二年次では頼れる先輩も運営を行ってくれる監督もいましたが、三年次からは監督がいなくなり、学生本人のみで部活動を運営していかなければいけなくなりました。その中でも私は主将を任せられ、練習の日程や大会出場への手続きなどを自ら行う事になりました。登録等の事前に行う事が大変多く、いかに周りのマネージャーや監督等に私達がプレーに集中できる環境作りに協力してきてくれた事に気づかされる機会となりました。大学バレーでは学生主体で動いているのでプレーだけでなく、バレーボールが当たり前にできているのは周りの人々の協力があってこそできている事に感謝の気持ちを持ちながら活動する事を心がける様になりました。中々、周りの協力に気付かず、部員をうまくまとめられない事もありましたが、監督がいなくなって改めて学生のみで活動して行く難しさも学びました。

今回、この様に表彰して頂いたのも、周りの人々の協力のお陰で部活動で良い成績を残せた事にあります。静岡県内における中部総合大会、天皇杯、大学リーグ戦については三つとも優勝する事ができました。その際には県外での開催へと続く大会もあった為、そこでも移動手段や宿泊の手続きなども自分達で行わなければならない事が本当に多く大変でした。その中でも私達の事を気遣ってくれる仲間の協力で本当に助けられた事もありました。今までの部活動では試合という目標に向かって集中し、評価は監督から得ていましたが、環境が変わってもお互いを評価し合える良い部活動へと変わったと思っています。

大学バレーにおいては技術向上だけではなく、バレーボールが当たり前にできる環境への感謝の気持ちや、お互いを気遣うなど、競技以前に大切な事を学べた部活動であると思います。

現状では感染症の蔓延により、いつも通り活動ができない環境にあります。この様な環境の中でもお互いに協力し、競技スポーツにおいて技術以上に大切な事を学んで行ければと思っていますので、今後とも男子バレーボール部をよろしくお願い致します。

各団体代表者「文化会」

国際教養学科三年
本間 航

私が文化会会長を務めることになり二年目を迎えましたが、昨年とは全く異なる状況に、当初は戸惑いを隠せませんでした。最も苦労した点は、やはり部活動の運営です。私は二つの部活動を兼部しておりますが、新入生に対し如何にアピールするかというのは共通の課題でした。本来なら設けられるはずの新入生勧誘のための期間が本年度は存在せず、基本的には各部活が独自に工夫するしかありませんでした。そんな中最も活用したのはSNSです。新入生向けに制作した動画などを投稿し、限られた機会の中で出来得る限りの手を尽くしました。その結果私の所属する一方の団体では二名の新入部員を迎えることができました。しかしもう一方では未だに新入部員がゼロという状況です。また楽器を扱う団体

であります。このように人との接触を避けなければならない状況下においては、やはり満足に活動することは叶わないというのが正直なところです。

それでも普段とはかけ離れた活動中で、部員同士の繋がりを感じることもありました。実際に顔を合わせての活動が不可能なため、大半の活動はオンラインになります。もちろんオンライン中心の活動など誰も経験がないため、どういった様子になるかは全くの未知数でした。いざ始まってみると、部活動の存続に関わる状況と不便さが幸いしてか、皆いつにも増して積極的に活動に取り組んでいたように思います。これまでも災害時に度々見られたことですが、危機的状況下における協調性というのは日本人の特質と言えるでしょう。またオンラインでのやり取りの方が普段よりも発言がし易いといった声もありました。このように何かとままならない中でも人々は着々と非日常に順応し始めていることをひしひしと感じます。

文化というものは決して固定的ではなく、歴史と共にその姿を変えてきました。そのため昨今の状況も単なる抑圧ではなく変化の一つとして捉えることもできるのではないでしょうか。

まだまだコロナウイルスの影響は続きますが、引き続き文化会会長として新たな部活動の形を作り上げていきたいと思いますので、今後ともご支援の程どうか宜しくお願い致します。

「体育会」

国際総合政策学科三年
竹井柊斗

当学部に入学して三年が経ち、私にとって「軟式野球部」は、自身を成長させてくれた特別な存在となりました。軟式野球部では例年、年四回のペースで大会に参加し、大会に向けて練習を行っています。

私は入学時、硬式野球部に所属していましたが、私情により退部しました。今までの学生生活は野球と共に歩んできたため、途方に暮れていました。そんな中、同じ高校の先輩に声をかけてもらったことで、軟式野球部に入部することになりました。そこでは、野球を楽しむことを心がけていて、経験者も初心者も楽しくプレーをしている姿を見て、本気で競技に向かう楽しさ以外の楽しさを見出すことが出来ました。

私を成長させてくれた契機は部長になったことです。私は率先して人前に立ち、引っ張っていくことをしてこなかった為、慣れない立ち位置に不安を抱いていました。そんな中、部長になり、初めての大会に参加したことで部長としての自信を持つことが出来ました。しかし、大会を終えた矢先に、コロナウイルスが流行しました。それによって、部の活動は制限されました。新入生勧誘の時期と重なったこともあり、新入生を直接迎え入れることが出来ずにいましたが、SNS等を活用したことでコミュニケーションを図り、活動が再会したときには入部してもらえるような体制を整える事が出来ました。しかし、感染は一向に収まることなく、後期もオンライン授業主体となり、私たち三年生は事実上の引退となりました。よって、私は部長としてほとんど活動することが出来ませんでした。しかし、それまでに行ってきたコロナウイルスへの対策を立て、行動した事で、成長出来たと感じています。これからは、後輩たちに引継ぎ、私たちが出来なかった分まで、部活を楽しめるように全力でサポートしていきたいです。

私はこのような時期に部長となったことはとても良い経験だと考えています。主体となって活動することを楽しみにしていた人もいると思いますが、この状況でこそ得られる経験などはこの先、社会人となり、苦しい場面があったとしても必ず活用できると思います。残り少ない任期ですが、再開に向けて様々な準備を進め、後輩たちには私たちの分まで楽しんでほしいと思います。今後とも体育会をよろしくお願いします。

「富桜祭」

国際総合政策学科三年
井上雄祐

私が日本大学国際関係学部に入学して三年が経ちました。入学してからの三年間は富桜祭実行委員会での活動で多くの思い出があります。ですが、今年は昨年までと違い新型コロナウイルス感染症の流行により多くの変化が見られました。毎年の様な学校行事が行えない中、今年で富桜祭は第七十回目を迎えます。毎年、日本大学国際関係学部三島キャンパスを盛り上げている富桜祭を形は変わりますが、今年も迎えられる事を大変嬉しく思います。この校友会会報を通じて、私が当委員会へ入部してから委員長として開催へ至るまでの経緯をお伝えできたらと思っております。

入学してからすぐ実行委員会へ入部をし、様々な活動を行いました。多くの先輩方や友達と出会いました。大学生という今までとは全く異なる環境での活動を行える事に期待と不安を感じました。一年間で多くの事を経験し、二年生では、実行委員会内で執行部へ推薦をいただきました。活動の幅を広げる事で、多くの事を学びました。様々な活動の中で、沢山の悩みを抱えて活動をしていた私は、数々の失敗を繰り返して気づいた事があります。それは、同じ実行委員会の部員たちとの関わりの大切さです。悩んでいた事も、人の意見を聞いてみると、違った観点からの捉え方が分かります。そんな中で昨年の第六十九回富桜祭を迎え、来場者を楽しませられる学園祭を通して第七十回富桜祭実行委員会の委員長になりたいと思い、立候補をさせていただきました。昨年度とは違った形での第七十回富桜祭の開催となりますが、昨年までとは違う魅力もあります。携帯電話やパソコンでの配信となりますのでどこでも見られます。今まで富桜祭へ足を運んでいなかった方やいつも来ていただいていた方へ届けられるような富桜祭へするべく残りの期間も全力で取り組んで参りますので、今後とも富桜祭をよろしくお願い致します。

令和元年度　事　業　報　告

1　国際関係学部校友会会長賞等授与
平成３０年度日本大学国際関係学部在学生から，次の者が国際関係学部長から推薦された。
・校友会会長賞（副賞：奨励金）は，国際関係学部３名に贈られ令和２年３月２５日予定の学位記伝達式が新型コロナウイルスの影響で中止になり賞状及び奨励金を本人宛に送付した。
・校友会優秀賞（副賞：奨励金）は，国際関係学部４名に贈られ令和２年３月２５日予定の学位記伝達式が新型コロナウイルスの影響で中止となり賞状及び奨励金を本人宛に送付した。
・校友会優秀賞（副賞：奨学金）は，国際関係学部３名及び１団体に贈られ新型コロナウイルスの影響で令和２年　月　日校舎１３号館１階ホールにおいて賞状及び奨学金を授与した。
①校友会会長賞（副賞：奨励金）
（国際総合政策学科４年）石川　真世　（国際総合政策学科４年）中川　幸輝
（国際総合政策学科４年）篠田　宏樹
②校友会優秀賞（副賞：奨励金）
（国際総合政策学科４年）青木　伊織　（国際総合政策学科４年）石川　和樹
（国際教養学科４年）　英　菜々子　（国際教養学科４年）　柳　理菜
③校友会優秀賞（副賞：奨学金）
（国際教養学科３年）　氏家　美里　（国際総合政策学科３年）高田　涼太朗
（国際総合政策学科２年）黒川　ひなの　（男子バレーボール部）　黒岩　涼太

1　スマホ・携帯ストラップ
950個を平成31年４月大学院及び国際関係学部並びに短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡した。

1　会報発行
会報50号を令和元年９月１日付け22頁　20,400部を発行した。

1　各事業に対する補助
①国際同窓会・桜栄会及び山形県支部に対する補助
②大学の体育会に対する補助
③箱根駅伝応援に対する補助
④就職合同面接会に対する補助

1　常任幹事会
令和元年６月１日(土)16時30分から，国際関係学部本校舎　校舎15号館５階において開催した。

1　幹事会
令和元年６月１日(土)17時10分から，国際関係学部本校舎　校舎15号館５階において開催した。

1　総会並びに懇親会
令和元年７月27日(土)15時30分から，みしまプラザホテルにおいて開催した。

1　国際校友会公式WEBサイト更新
平成31年４月から公式ＷＥＢサイト（ホームページ）に年間14回に渡り校友会行事を写真集として更新した。

1　就職合同面接会
令和元年８月２日(金)13時から17時まで，国際関係学部三島駅北口校舎６階に於いて国際関係学部・短期大学部の卒業予定者に対する就職支援の一環とした合同面接会を開催した。
（参加企業　19社：参加学生　18名：内定者　６名）

1　富桜祭物産展参加
令和元年10月26日(土)･27日(日)両日に開催された第69回富桜祭に校舎15号館1階スタディエリアの一部を使用して校友会主催による地元特産物等の販売をした。

1　ホームカミングデー開催
令和元年8月15日(木)16時から20時まで佐藤塾(本町交差点)にて日大三島高校同窓会三島支部との共催による『三島大祭りバージョン』を国際関係学部･短期大学部(三島)及び日大三島高校卒業生並びに法･文理･経済･商学部移行生で三島大社夏祭り見学者を対象として開催し53名の参加者となった。
令和元年10月26日(土)11時から15時まで校舎13号館2階講師室にて開催した。当日は富桜祭を見学に来校した国際関係学部･短期大学部(三島)卒業生･在学生並びに法･文理･経済･商学部移行で5名の参加者となった。

1　銀杏並木歩道清掃作業
本校舎西側(県道21号線)歩道両側の清掃作業を実施した。ボランティア活動の一環として毎月第4日曜日の午前9時から約1時間、銀杏並木南側歩道橋附近から北側幸原町交差点までの両側歩道植え込み清掃を4月28日を本年度第1回目として11回実施し、参加者は校友会会員に加えレディース桜門会並びに日大三島高校生徒等112名が参加した。

令和元年度　収　支　決　算　書（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31日）

（単位:円）

支出の部				収入の部			
項目	予算額	決算額	差額	項目	予算額	決算額	差額
奨学費	390,000	360,000	30,000	会費収入	13,500,000	13,050,000	450,000
校友会報発行費	820,000	826,848	△ 6,848	雑収入	780,000	974,213	△ 194,213
各科同窓会等補助	300,000	120,000	180,000				
学生団体補助	800,000	139,200	660,800				
総会並びに懇親会費	1,200,000	1,209,759	△ 9,759				
箱根駅伝応援補助	920,000	694,044	225,956				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
入学記念品費	500,000	367,200	132,800				
卒業記念品費	1,500,000	1,420,000	80,000				
会議会合費	300,000	293,604	6,396				
通信運搬費	2,000,000	2,255,155	△ 255,155				
ホームページ運営費	400,000	436,135	△ 36,135				
事務費	1,600,000	1,723,540	△ 123,540				
会員名簿作成費	100,000	0	100,000				
就職合同面接会運営費	480,000	425,832	54,168				
日本大学130周年記念寄付金	100,000	100,000	0				
雑費	800,000	1,199,527	△ 399,527				
国際関係学部校友会奨学金支援基金	250,000	250,000	0				
予備費	100,000	0	100,000				
計	13,030,000	12,290,844	739,156	計	14,280,000	14,024,213	255,787
基金繰入額	300,000	300,000	0	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金	34,016,801	34,500,170	△ 483,369	前年度繰越金	33,066,801	33,066,801	0
（繰越金）	34,016,801	34,500,170					
支出の部合計	47,346,801	47,091,014	255,787	収入の部合計	47,346,801	47,091,014	255,787

貸　借　対　照　表（平成 30 年 3 月 31 日現在）

（単位:円）

借方		貸方	
項目	金額	項目	金額
普通預金	49,500,170	基金	20,340,000
定期預金	5,340,000	前年度繰越金	20,040,000
		本年度繰入額	300,000
		本年度繰出額	0
		次年度繰越金	34,500,170
		繰越金	34,500,170
合計	54,840,170	合計	54,840,170

基　金　の　内　訳

（単位:円）

項目	前年度繰越額	本年度繰入額	本年度繰出額	合計
基金	20,040,000	300,000	0	20,340,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	6,680,000	100,000	0	6,780,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	6,680,000	100,000	0	6,780,000
三島学園開設75周年記念事業基金準備金	6,680,000	100,000	0	6,780,000
計	20,040,000	300,000	0	20,340,000

令和元年度収支について関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが,記帳その他正確であることを認めます。

令和2年4月26日

会計監査　木　村　貴美和 ㊞
会計監査　藤　本　文　彦 ㊞

令和2年度　事　業　計　画

1　国際関係学部校友会会長賞等授与（副賞：奨励金もしくは奨学金）
日本大学国際関係学部及び短期大学部（三島校舎）令和３年３月卒業･４月進級の予定者を対象とする。

・校友会会長賞並びに奨励金	国際関係学部	４年卒業予定者	３名
・校友会優秀賞並びに奨励金	国際関係学部	４年卒業予定者	４名
	短期大学部（専攻科含む）	２年卒業予定者	２名
・校友会優秀賞並びに奨学金	国際関係学部	２・３年在学生	４名
	短期大学部（専攻科含む）	１年在学生	２名

1　メタルクラフト
1,200個を製作し令和２年４月大学院及び国際関係学部並びに短期大学部（三島校舎）各学科及び専攻科の新入生全員に対して入学祝として渡す。
1　会報発行
会報51号（令和２年９月１日付）22頁　21,500部発行予定。
1　各事業に対する補助
①各科同窓会及び支部に対する補助
②大学体育会・文化会に対する補助
③箱根駅伝応援（予選会含む）に対する補助
1　常任幹事会
令和２年６月６日(土)16時00分から，国際関係学部本校舎　校舎15号館において開催する。
1　幹事会
令和２年６月６日(土)16時30分から，国際関係学部本校舎　校舎15号館において開催する。
1　総会並びに懇親会
令和２年７月４日(土)15時30分から，みしまプラザホテルにおいて開催する。
1　国際校友会公式ＷＥＢサイト更新
年間行事を写真集として更新する。
1　箱根駅伝予選会応援
令和2年10月17日(土)国営昭和記念公園コースのスタート･ゴール地点及び中間地点で応援する。
1　富桜祭物産展参加
令和2年10月31日(土)11月1日(日)に開催される第70回富桜祭に校舎15号館1階スタディエリアの一部を使用して10時から16時まで校友会主催による地元特産物等の販売に参加する。
1　ホームカミングデー開催
令和２年８月15日(土)16時から20時まで佐藤塾（本町交差点）にて日大三島高校同窓会三島支部との共催による「三島大祭りバージョン」を国際関係学部・短期大学部（三島）及び日大三島高校卒業生並びに法・文理・経済・商学部移行生を対象として開催する。
令和２年10月31日(土)11時から15時まで校舎13号館２階講師室にて国際関係学部・短期大学部（三島）及び法・文理・経済・商学部移行生を対象とした学園訪問懇談会を開催する。
1　箱根駅伝応援
令和３年１月３日(日)復路スタート応援地点で応援する。また，令和３年１月２日(土)往路ゴール応援地点及び令和３年１月３日(日)復路スタート応援地点で国際関係学部チアリーディング部・文化会所属吹奏楽部の学生が応援に参加する。
1　銀杏並木歩道清掃作業
ボランティア活動の一環として、本校舎西側（県道21号線）歩道両側の清掃作業を実施する。
実施日は毎月第４日曜日午前９時から約１時間とする。

令和2年度　収　支　予　算　書　（令和２年４月１日～令和３年３月31日）　（単位:円）

支出の部				収入の部			
項目	本年度予算額	前年度予算額	差額	項目	本年度予算額	前年度予算額	差額
奨学費	390,000	390,000	0	会費収入	13,408,000	13,500,000	△ 92,000
校友会報発行費	820,000	820,000	0	雑収入	974,000	780,000	194,000
各科支部等補助	300,000	300,000	0				
学生団体補助	800,000	800,000	0				
総会並びに懇親会費	1,200,000	1,200,000	0				
箱根駅伝応援等補助	920,000	920,000	0				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
入学記念品費	600,000	500,000	100,000				
卒業記念品費	1,500,000	1,500,000	0				
会議会合費	300,000	300,000	0				
通信運搬費	2,200,000	2,000,000	200,000				
ホームページ運営費	450,000	400,000	50,000				
事務費	1,700,000	1,600,000	100,000				
会員名簿作成管理費	100,000	100,000	0				
就職合同面接会運営費	0	480,000	△ 480,000				
日本大学130周年記念寄付金	100,000	100,000	0				
雑費	800,000	800,000	0				
国際関係学部校友会奨学金支援基金	250,000	250,000	0				
予備費	200,000	100,000	100,000				
計	13,100,000	13,030,000	70,000	計	14,382,000	14,280,000	102,000
基金繰入額	300,000	300,000	0	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金	35,482,170	34,016,801	1,465,369	前年度繰越金	34,500,170	33,066,801	1,433,369
（繰越金）	35,482,170	34,016,801					
支出の部合計	48,882,170	47,346,801	1,535,369	収入の部合計	48,882,170	47,346,801	1,535,369

基　金　の　内　訳　（単位:円）

項目	前年度繰越額	本年度繰入額	本年度繰出額	合計
基金	20,340,000	300,000	0	20,640,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	6,780,000	100,000	0	6,880,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	6,780,000	100,000	0	6,880,000
三島学園開設75周年記念事業基金準備金	6,780,000	100,000	0	6,880,000
計	20,340,000	300,000	0	20,640,000

令和2年度役員

任期(H30.4.1 ～R03.3.31)

役　職	氏　名（在学年度）
教養学部	
幹　事	吉野洋一（35）
幹　事	鈴木　肇（35）
幹　事	御供政紀（35･36）
幹　事	小澤文郎（36）
幹　事	坂口正剛（37）
幹　事	小石川宣照（37）
幹　事	遠藤日出夫（37）
幹　事	渡辺博夫（37）
幹　事	両角　勇（42）
幹　事	江川　洋（42）
幹　事	林田孝二（43）
幹　事	藤幡俊量（46）
幹　事	野村諒子（46）
幹　事	高藤省三（49）
幹　事	室伏伯士（48）
幹　事	瀧本　博（53）
幹　事	中川　一（56）
桜文会	
幹　事	隅田やす代（43･44）
幹　事	野村恭子（44･45）
幹　事	園田正子（45･46）
幹　事	小永井京子（46･47）
幹　事	内田恵子（51･52）
幹　事	高橋真理子（51･52）
幹　事	関野啓子（51･52）
幹　事	中野利庸子（52･53）
幹　事	榎本睦美（52･53）
幹　事	杉浦美恵子（53･54）
幹　事	石井千枝子（55･56）
幹　事	高橋令子（56･57）
幹　事	西島節子（56･57）
幹　事	疋田仁美（57･58）
幹　事	沼上博美（48･49）
幹　事	小林美佐枝（49･50）
幹　事	田邉尚美（50･51）
幹　事	前川和代（50･51）
幹　事	松村啓子（51･52）
幹　事	諏訪部昭子（51･52）
幹　事	斎藤千鶴子（51･52）
幹　事	和田律子（51･52）
幹　事	興野智子（51･52）
幹　事	佐野有美（51･52）
幹　事	大塚久子（51･52）
幹　事	瀬川晶子（51･52）
幹　事	吉川しのぶ（51･52）
幹　事	山崎潤子（53･54）
幹　事	田中真由実（53･54）

役　職	氏　名（在学年度）
会　長	横山雅人（56～59）
副会長	宮下公雄（54～57）
副会長	濱田義之（45）
副会長	山田浩子（41･42）
副会長	江本博勝（46･47）
副会長	平澤佳代子（58･59）
副会長	弓場重明（44･45）
幹事長	田中由雄（42･43）
常任幹事	関野浩二（57～60）
常任幹事（庶務担当）	塩谷典子（56～59）
常任幹事（会計担当）	市川紀子（35･36）
常任幹事	伊奈敏文（39･40）
常任幹事	染谷徳昭（42･43）
常任幹事	山口良児（43･44）
常任幹事	平岩美知子（44･45）
常任幹事	久保田博明（45･46）
常任幹事	遠藤晶子（44･45）
常任幹事	早川清文（45･46）
常任幹事	西野和衛（46･47）
常任幹事	瀬川　宏（47･48）
常任幹事	神戸絹代（47･48）
常任幹事	多田清吾（47･48）
常任幹事	鈴木　允（48）
常任幹事	露木ひろみ（52･53）
常任幹事	押見恵美子（53･54）
常任幹事	松原裕二（54～57）
常任幹事	勝亦幾代（56･57）
常任幹事	西田昭子（57･58）
常任幹事	高野　誠（57～60）
常任幹事	勝又義博（57～60）
常任幹事	久保和之（63･01）
常任幹事	久保田裕子（01･02）
常任幹事	藤澤博隆（08･09）
常任幹事	山瀬　匠（03･04）
常任幹事	渡邉孝哉（09･10）
常任幹事	深澤ほの香（23～26）
常任幹事	日吉　智（25･26）
会計監査	藤本文彦（52･53）
会計監査	木村貴美和（55～58）

役　職	氏　名（在学年度）
顧　問	柴田　正（41･42）
顧　問	小早川隆義（42･43）
顧　問	相田信次（44･45）
顧　問	野中美香（55･56）
参　与	渡辺洋子（35･36）

公式WEBサイト

URL　http://www.nu-ir-koyukai.jp/

役	職	氏　　名（在学年度）
幹	事	野田正人（62･63）
幹	事	對木智宏（62･63）
幹	事	田伏正和（01･02）
幹	事	名雪しげみ（01･02）
幹	事	菅江　稔（02･03）
幹	事	明石知恵美（02･03）
幹	事	川原浩貴（03･04）
幹	事	小野和彦（03･04）
幹	事	今川高宏（04･05）
幹	事	町野智彦（05･06）
幹	事	池田昌史（08･09）
幹	事	成田伸行（08･09）
桜栄会		
幹	事	山口玲子（34･35）
幹	事	阿部麻子（35･36）
幹	事	木崎有里子（35･36）
幹	事	渡辺かよ子（35･36）
幹	事	板垣和代（36･37）
幹	事	佐野茂子（36･37）
幹	事	小泉陽子（36･37）
幹	事	中村満里子（37･38）
幹	事	川口裕子（37･38）
幹	事	米山日出子（37･38）
幹	事	金井美智子（38･39）
幹	事	小坂照子（38･39）
幹	事	塩谷まさよ（38･39）
幹	事	井原康恵（38･39）
幹	事	望月千登世（38･39）
幹	事	浅田義志子（39･40）
幹	事	秋山幸子（39･40）
幹	事	関口　瑞（39･40）
幹	事	福尾つや子（39･40）
幹	事	神部文子（39･40）
幹	事	伊達伸子（40･41）
幹	事	高橋美鶴（40･41）
幹	事	石黒榮美子（41･42）
幹	事	鳥羽山資子（41･42）
幹	事	秋山悦子（41･42）
幹	事	渡辺あき子（41･42）
幹	事	嶋　美也子（41･42）
幹	事	伊藝　睦（41･42）
幹	事	駿藤春代（42･43）
幹	事	石原泰代（42･43）
幹	事	影山貴美枝（43･44）
幹	事	土屋時子（43･44）
幹	事	柴田敬子（44･45）
幹	事	川村千代子（45･46）
幹	事	辻　　緑（45･46）
幹	事	小林秀実（45･46）
幹	事	杉本清美（46･47）
幹	事	佐藤奈津美（47･48）
幹	事	鈴木佳津江（47･48）
幹	事	神田みつ子（47･48）
幹	事	勝又昌代（48･49）

役	職	氏　　名（在学年度）
幹	事	長川あかね（07･08）
幹	事	野村奈央（07･08）
幹	事	野村美之（07･08）
幹	事	山崎幸恵（08･09）
幹	事	林　隆子（09･10）
幹	事	藤本敦子（09･10）
幹	事	工藤美咲（10･11）
商経･一部		
幹	事	萩野谷　肇（41･42）
幹	事	上田定義（41･42）
幹	事	向笠　肇（41･42）
幹	事	加藤久貴（46･47）
幹	事	秋山稔明（46･47）
幹	事	海野順子（46･47）
幹	事	野田　栄（47･48）
幹	事	辻本真由美（51･52）
幹	事	田代　稔（51･52）
幹	事	大島裕二（52･53）
幹	事	岡田美喜子（53･54）
幹	事	吉川浩司（54･55）
幹	事	後藤幸江（58･59）
幹	事	齋藤みどり（59･60）
幹	事	長澤裕子（59･60）
幹	事	齋藤千春（01･02）
幹	事	南　まり子（03･04）
幹	事	川口恭子（04･05）
幹	事	白川美保（05･06）
幹	事	小柴慶子（06･07）
幹	事	日馬孝昌（30･01）
商経･二部		
幹	事	久保田　勝（38･39）
幹	事	佐野勝己（39･40）
幹	事	土屋忠得（40･41）
幹	事	小澤義明（46･47）
幹	事	宮川　守（47･48）
幹	事	西島典雄（47･48）
幹	事	関野幹雄（48･49）
幹	事	小川正治（49･50）
幹	事	近藤芳治（49･50）
幹	事	津田正克（50･51）
幹	事	甲斐幸博（51･52）
幹	事	甲斐忠則（51･52）
幹	事	後藤善夫（52･53）
幹	事	加藤喜章（53･54）
幹	事	鈴木理平（54･55）
幹	事	内野祥司（55･56）
幹	事	守野敏也（55･56）
幹	事	山田　良（55･56）
幹	事	鈴木明彦（57･58）
幹	事	杉山勝行（57･58）
幹	事	黒田文量（59･60）
幹	事	金城三十二（59･60）
幹	事	武井直子（60･61）
幹	事	土佐谷泰子（61･62）

役	職	氏　　名（在学年度）
幹	事	足立俊子（54･55）
幹	事	原賀桂津世（54･55）
幹	事	武田裕美（55･56）
幹	事	名取厚子（56･57）
幹	事	北川早苗（56･57）
幹	事	山崎睦子（57･58）
幹	事	田中裕子（57･58）
幹	事	竹村峰加（57･58）
幹	事	高野直美（58･59）
幹	事	秋山恵子（58･59）
幹	事	佐野裕子（58･59）
幹	事	阿部昭子（59･60）
幹	事	鍵山美希（59･60）
幹	事	神田留美子（60･61）
幹	事	佐藤明美（61･62）
幹	事	後藤澄映（61･62）
幹	事	松縄和恵（62･63）
幹	事	内田美典（62･63）
幹	事	中川みどり（62･63）
幹	事	神戸一葉（62･63）
幹	事	白石　忍（63･01）
幹	事	田邊久美子（63･01）
幹	事	伊藤芳枝（63･01）
幹	事	渡邉陽子（01･02）
幹	事	山本いづみ（01･02）
幹	事	犬塚久恵（01･02）
幹	事	鈴木みのり（01･02）
幹	事	関口葉子（01･02）
幹	事	石井三香子（02･03）
幹	事	藤森久美子（02･03）
幹	事	渡辺幸子（02･03）
幹	事	杉本宏子（02･03）
幹	事	稲葉美香（02･03）
幹	事	高鹿真弓（03･04）
幹	事	森川容子（03･04）
幹	事	秋山由紀（03･04）
幹	事	長瀬理恵子（03･04）
幹	事	北薗実由貴（03･04）
幹	事	阿部衣子（03･04）
幹	事	川口文子（03･04）
幹	事	長田瑞紀（04･05）
幹	事	梅田敏江（04･05）
幹	事	大畑美代子（04･05）
幹	事	植松郁子（05･06）
幹	事	古川みどり（05･06）
幹	事	古屋美帆（06･07）
幹	事	長田弘子（06･07）
幹	事	波多野律子（06･07）
幹	事	齋藤文江（06･07）
幹	事	佐野真弓（06･07）
幹	事	稲田友美（07･08）
幹	事	橋本春佳（07･08）
幹	事	小林亜希（07･08）

役	職	氏　　名（在学年度）
幹	事	鞍本鮎美（11･12）
幹	事	尾間裕仁（11･12）
幹	事	笠原奈津子（11･12）
幹	事	宮田朋子（11･12）
幹	事	鈴木典子（12･13）
幹	事	篠原由佳（12･13）
幹	事	赤川智海（12･13）
幹	事	小出祐子（12･13）
幹	事	峯松園美（13･14）
幹	事	山田美穂（13･14）
幹	事	清水磨希子（13･14）
幹	事	高橋由実（13･14）
幹	事	米永寿子（13･14）
幹	事	岩田直子（14･15）
幹	事	大沼秋桜子（14･15）
幹	事	高橋美絵子（14･15）
幹	事	石渡麻史（14･15）
幹	事	服部直美（14･15）
幹	事	秋山絵操（14･15）
幹	事	山田真理子（14･15）
幹	事	小野順子（14･15）
幹	事	栗田裕子（15･16）
幹	事	河原崎朱里（15･16）
幹	事	平澤怜子（15･16）
幹	事	田村美沙子（15･16）
幹	事	植松明菜（15･16）
幹	事	荻島宏予（15･16）
幹	事	渡邉裕未（15･16）
幹	事	荒井沙織（15･16）
幹	事	宇野浩吏（16･17）
幹	事	星野成幸（16･17）
幹	事	渡邉　尚（16･17）
幹	事	松島佳奈子（16･17）
幹	事	中西麻純（16･17）
幹	事	増島清美（16･17）
幹	事	萩原美香（16･17）
幹	事	平川綾乃（16･17）
幹	事	綾部久美子（16･17）
幹	事	桑山理沙（16･17）
幹	事	飯田泰恵（17･18）
幹	事	石川裕里佳（17･18）
幹	事	田中沙季（17･18）
幹	事	堀田裕貴（17･18）
幹	事	隅田優美（17･18）
幹	事	岩代美貴（18･19）
幹	事	加藤未奈（18･19）
幹	事	澤谷友香里（18･19）
幹	事	豊田彩香（18･19）
幹	事	野口明日香（18･19）
幹	事	藤井里奈（18･19）
幹	事	松井志保美（18･19）
幹	事	萬両美幸（18･19）

役	職	氏　　名（在学年度）
幹	事	山口美樹（62･63）
幹	事	櫻田智栄美（63･01）
幹	事	三宅理砂子（63･01）
幹	事	野上　香（63･01）
幹	事	日吉美由紀（63･01）
幹	事	高梨いづみ（63･01）
幹	事	勝俣千穂（01･02）
幹	事	田村尚子（01･02）
幹	事	杉村智恵（01･02）
幹	事	湯原里美（01･02）
幹	事	市川智香（02･03）
幹	事	岡本ゆう子（02･03）
幹	事	羽田真理子（02･03）
幹	事	望月ゆりか（03･04）
幹	事	安田ひとみ（03･04）
幹	事	西村直子（03･04）
幹	事	宮本久美子（03･04）
幹	事	渡邉真理子（03･04）
幹	事	小澤知子（04･05）
幹	事	出口幸子（04･05）
幹	事	井上雅代（04･05）
幹	事	西岡かおり（04･05）
幹	事	田村美保（04･05）
幹	事	岩下志保（05･06）
幹	事	関屋園子（05･06）
幹	事	渡邉千史（05･06）
幹	事	川口由美子（05･06）
幹	事	池谷尚美（05･06）
幹	事	中村理恵子（05･06）
幹	事	遠藤理愛（05･06）
幹	事	神尾かほり（06･07）
幹	事	田中里都美（06･07）
幹	事	鈴木寛子（06･07）
幹	事	山本静香（06･07）
幹	事	佐藤純子（06･07）
幹	事	三須洋美（06･07）
幹	事	齊藤真由美（07･08）
幹	事	和泉久美（07･08）
幹	事	小野澤美和（07･08）
幹	事	小林世以子（07･08）
幹	事	中林香子（07･08）
幹	事	水谷鯉恵（07･08）
幹	事	横田　忍（07･08）
幹	事	中橋智子（08･09）
幹	事	神戸亜里沙（08･09）
幹	事	兼房はな（08･09）
幹	事	石崎由香（08･09）
幹	事	佐藤美幸（09･10）
幹	事	田村理絵（09･10）
幹	事	内田　恵（09･10）
幹	事	渡邊明子（09･10）
幹	事	植野敦子（09･10）
幹	事	佐野文美（10･11）

役	職	氏　　名（在学年度）
幹	事	原　康子（48･49）
幹	事	杉澤道代（48･49）
幹	事	碓井久美子（49･50）
幹	事	岩田智加子（50･51）
幹	事	大沼めぐみ（50･51）
幹	事	峰田富美子（51･52）
幹	事	山口智佳子（51･52）
幹	事	堤　令子（52･53）
幹	事	白井道代（52･53）
幹	事	石橋治代（52･53）
幹	事	岩崎美浪（52･53）
幹	事	竹内厚子（52･53）
幹	事	宮澤正江（52･53）
幹	事	遠藤豊美（52･53）
幹	事	長谷川規子（52･53）
幹	事	松川順子（52･53）
幹	事	松崎光子（52･53）
幹	事	中澤小雪（53･54）
幹	事	齋藤裕子（53･54）
幹	事	長田智子（53･54）
幹	事	船石圭子（53･54）
幹	事	四條里美（53･54）
幹	事	鷲巣かほる（53･54）
幹	事	藤原和美（54･55）
幹	事	原田純子（54･55）
幹	事	池谷美津子（54･55）
幹	事	中澤由利子（54･55）
幹	事	佐伯絵里子（54･55）
幹	事	伊藤若菜（54･55）
幹	事	吉田麻理子（55･56）
幹	事	藤田建江（56･57）
幹	事	小澤里佳子（56･57）
幹	事	深津久美子（56･57）
幹	事	石谷美智子（57･58）
幹	事	田中恵子（57･58）
幹	事	嶋　由樹子（57･58）
幹	事	鈴木江利子（57･58）
幹	事	鈴木敦子（58･59）
幹	事	武藤さゆり（58･59）
幹	事	荻沢洋子（58･59）
幹	事	山田明子（58･59）
幹	事	鈴木佳乃（59･60）
幹	事	中條朝子（59･60）
幹	事	加藤容子（59･60）
幹	事	清水佳乃（59･60）
幹	事	稲葉桂子（60･61）
幹	事	藤井由紀子（60･61）
幹	事	穂谷野弥生（60･61）
幹	事	小島みちよ（61･62）
幹	事	久保玲華（61･62）
幹	事	山下朋子（61･62）
幹	事	鷲尾貴子（62･63）
幹	事	田上順子（62･63）

役	職	氏　　名(在学年度)
幹	事	高野真一(54～57)
幹	事	諏訪部　健(55～58)
幹	事	小松徳弘(56～59)
幹	事	平野雅之(56～59)
幹	事	福田勝弘(56～59)
幹	事	宇田隆康(56～59)
幹	事	山本宏治(57～60)
幹	事	三浦　仁(57～60)
幹	事	森田克彦(58～61)
幹	事	佐上菊二(58～61)
幹	事	小塚敏久(58～61)
幹	事	横溝泰蔵(59～62)
幹	事	池尻敏広(59～62)
幹	事	土田洋二(60～63)
幹	事	桑原健治(60～63)
幹	事	木俣かおり(61～01)
幹	事	増原伸一(61～01)
幹	事	犬塚重暁(63～03)
幹	事	野口　厚(63～03)
幹	事	藤田　隆(63～03)
幹	事	廣岡達郎(01～04)
幹	事	齋藤　実(01～04)
幹	事	佐藤淳悦(01～04)
幹	事	高橋博樹(01～04)
幹	事	長谷川哲夫(01～04)
幹	事	村上東洋男(01～04)
幹	事	須田啓一郎(01～04)
幹	事	椿　昌寛(01～04)
幹	事	南　敦子(02～05)
幹	事	門脇正明(02～05)
幹	事	藤原誠吾(02～05)
幹	事	前田智也(02～05)
幹	事	坂井利彰(02～05)
幹	事	小田純子(02～05)
幹	事	田辺裕司(02～05)
幹	事	田松正樹(02～05)
幹	事	西岡昌仁(02～05)
幹	事	鎌田文一(02～05)
幹	事	沼尻正則(03～06)
幹	事	若松はるか(03～06)
幹	事	三宅大介(03～06)
幹	事	清水　建(03～06)
幹	事	小塚達郎(03～06)
幹	事	紅林美智子(03～07)
幹	事	佐藤治夫(04～07)
幹	事	千野琢麿(04～07)
幹	事	渡辺将之(04～07)
幹	事	杉山文予(05～08)
幹	事	江島照美(05～08)
幹	事	室伏寛美(05～08)
幹	事	田尻美三(05～08)
幹	事	青木　徹(05～08)
幹	事	大嶽龍一(05～08)
幹	事	室伏太郎(05～08)
幹	事	山本芽生(24･25)
幹	事	藤原　麗(24･25)
幹	事	満間恵子(24･25)
幹	事	天野真由香(25･26)
幹	事	恩田剛弥(25･26)
幹	事	齊藤花衣(25･26)
幹	事	中川　歩(25･26)
幹	事	駒形亜海(26･27)
幹	事	中嶋千里(26･27)
幹	事	大島由樹(26･27)
幹	事	加藤早織(26･27)
幹	事	高橋美帆(26･27)
幹	事	宮澤理紗(26･27)
幹	事	吉田まゆ子(26･27)
幹	事	長橋侑希(26･27)
幹	事	橋本華奈(27･28)
幹	事	鈴木麻友(27･28)
幹	事	大箸理沙(27･28)
幹	事	鈴木瑠菜(27･28)
幹	事	福島真由(27･28)
幹	事	西村早織(28･29)
幹	事	渡部もも(28･29)
幹	事	青木小百合(28･29)
幹	事	新井はるか(28･29)
幹	事	原田夏実(29･30)
幹	事	勝又早菜(29･30)
幹	事	鈴木美空(29･30)
幹	事	八木勇紀(29･30)
幹	事	植松あいか(30･01)
幹	事	鈴木翔悟(30･01)
幹	事	鈴木希久枝(30･01)
工	**科**	
幹	事	宮下正俊(39･40)
幹	事	菅沼　弘(39･40)
幹	事	土屋貞明(42･43)
幹	事	渡辺　清(42･43)
幹	事	赤地哲也(42･43)
幹	事	吉田　力(44･45)
幹	事	長倉良幸(44･45)
幹	事	三枝和彦(46･47)
幹	事	渡辺昌宏(46･47)
幹	事	勝間田太住(47･48)
幹	事	天野寿一(48･49)
幹	事	上原豊和(52･53)
幹	事	西家勝彦(52･53)
幹	事	久保田武生(52･53)
幹	事	埜村光伸(53･54)
幹	事	勝呂千明(53･54)
幹	事	鈴木啓太郎(54･55)
国	**際**	
幹	事	川口智彦(54～57)
幹	事	斎藤　聡(54～57)
幹	事	柳川浩昭(54～57)
幹	事	福島健嗣(18･19)
幹	事	秋山　海(18･19)
幹	事	廣江亜佐美(18･19)
幹	事	冨井映里(19･20)
幹	事	中安美咲(19･20)
幹	事	藤井ゆりか(19･20)
幹	事	伊藤靖子(19･20)
幹	事	三宅ひとみ(19･20)
幹	事	青木裕也(20･21)
幹	事	小林可南子(20･21)
幹	事	石政未希(20･21)
幹	事	岩井友紀(20･21)
幹	事	澤木心美(20･21)
幹	事	杉本愛季(20･21)
幹	事	西原萌恵(20･21)
幹	事	高橋千恵(20･21)
幹	事	市川佳夏子(20･21)
幹	事	青木萌子(21･22)
幹	事	長田知郁(21･22)
幹	事	清水　遥(21･22)
幹	事	時吉結巳(21･22)
幹	事	湯山菜名(21･22)
幹	事	矢田さき(21･22)
幹	事	加藤祥子(21･22)
幹	事	小見山伊代(21･22)
幹	事	山下あゆ(21･22)
幹	事	小嶋絵梨花(21･22)
幹	事	桑原里沙(22･23)
幹	事	小原美妃子(22･23)
幹	事	塩谷彰子(22･23)
幹	事	朝比奈涼子(22･23)
幹	事	篠原莉那(22･23)
幹	事	奈良彩夏(22･23)
幹	事	原賀あかり(22･23)
幹	事	渡邉愛菜(22･23)
幹	事	川久有紀(22･23)
幹	事	鵜澤まゆか(22･23)
幹	事	江打真衣(23･24)
幹	事	諸星　楓(23･24)
幹	事	朝日健太(23･24)
幹	事	大木史恩(23･24)
幹	事	鈴木沙羅(23･24)
幹	事	田島理瑛(23･24)
幹	事	深谷正城(23･24)
幹	事	堀　佑美佳(23･24)
幹	事	守野恭介(23･24)
幹	事	須藤静香(24･25)
幹	事	田中菜絵(24･25)
幹	事	石井さくら(24･25)
幹	事	伊東亜珠沙(24･25)
幹	事	杉山亜梨沙(24･25)
幹	事	成田安実里(24･25)
幹	事	山田瑞歩(24･25)

役	職	氏　　名（在学年度）
幹	事	橋本康弘（20～23）
幹	事	張替祐介（20～23）
幹	事	山下昌志（20～23）
幹	事	本田怜央（20～23）
幹	事	小林訓史（21～24）
幹	事	白滝成美（21～24）
幹	事	茂木宏之（21～24）
幹	事	松山直弘（22～25）
幹	事	大門由佳（22～25）
幹	事	石川雄大（22～25）
幹	事	牧野竜太郎（23～26）
幹	事	福岡泰祐（23～26）
幹	事	堀川未来夢（23～26）
幹	事	中尾光太郎（24～27）
幹	事	本間淳博（24～27）
幹	事	永田真希（24～27）
幹	事	佐野佑太（24～27）
幹	事	高橋義典（24～27）
幹	事	柿沼友哉（24～27）
幹	事	前原唯之介（24～27）
幹	事	秋間一樹（25～28）
幹	事	松原大輔（25～28）
幹	事	石川裕也（25～28）
幹	事	阿久津未来也（25～28）
幹	事	仲　萌菜実（26～29）
幹	事	嘉代　誠（26～29）
幹	事	坂本早穂（26～29）
幹	事	小野勇太（26～29）
幹	事	武藤航至（26～29）
幹	事	野間口　健（26～29）
幹	事	山本大樹（26～29）
幹	事	橋本竜馬（26～29）
幹	事	田畑祐梨（26～29）
幹	事	井上和也（26～29）
幹	事	星野陸也（27～30）
幹	事	大澤和也（27～30）
幹	事	上原隼人（27～30）
幹	事	松岡慶樹（27～30）
幹	事	鈴木彩音（27～30）
幹	事	岡部星輝（27～30）
幹	事	小森聖也（27～30）
幹	事	大澤和也（27～30）
幹	事	小澤拓馬（27～30）
幹	事	今野大喜（27～30）
幹	事	石川真世（28～01）
幹	事	中川幸輝（28～01）
幹	事	篠田宏樹（28～01）
幹	事	青木伊織（28～01）
幹	事	石川和樹（28～01）
幹	事	英　菜々子（28～01）
幹	事	柳　　理菜（28～01）

役	職	氏　　名（在学年度）
幹	事	浅野雄介（13～16）
幹	事	本多加奈（13～16）
幹	事	山本彩子（13～16）
幹	事	相見大輔（13～16）
幹	事	板橋紗綾香（13～16）
幹	事	武田泰弘（13～16）
幹	事	浅石友里子（13～16）
幹	事	渡邊頌子（13～16）
幹	事	大谷津高章（13～16）
幹	事	河野奈津子（14～17）
幹	事	脇田千草（14～17）
幹	事	綱島　昇（14～17）
幹	事	塚田泰章（14～17）
幹	事	杉町カウエ（14～17）
幹	事	小川　淳（14～17）
幹	事	内村　彩（14～17）
幹	事	渡邉賢治（14～17）
幹	事	勝又勇旭（14～17）
幹	事	井出知里（15～18）
幹	事	井所博志（15～18）
幹	事	小倉宏紀（15～18）
幹	事	宮腰治憲（15～18）
幹	事	田野口晧太（15～18）
幹	事	菅家奈都美（15～18）
幹	事	藁谷和正（17･18）
幹	事	岩井小百合（16～19）
幹	事	鈴木弘明（16～19）
幹	事	黒子佳恵（16～19）
幹	事	大森未奈子（16～19）
幹	事	笠倉　諒（16～19）
幹	事	中山優貴（17～20）
幹	事	浅井啓悟（17～20）
幹	事	芹沢　崇（17～20）
幹	事	関谷紀志（17～20）
幹	事	長谷川孝洋（17～20）
幹	事	勝呂　孝（17～20）
幹	事	中島由人（17～20）
幹	事	笠原菜央子（17～20）
幹	事	古山結子（17～20）
幹	事	永野映吏可（18～21）
幹	事	勝又智子（18～21）
幹	事	西岡　基（18～21）
幹	事	緒方義明（18～21）
幹	事	後藤奈津子（18～21）
幹	事	祭　興斌（18～21）
幹	事	片柳健太（18～21）
幹	事	木佐木枝里（18～21）
幹	事	久保田真未（19～22）
幹	事	御所園智仁（19～22）
幹	事	阿部裕樹（19～22）

役	職	氏　　名（在学年度）
幹	事	明石浩一（05～09）
幹	事	今川　慶（06～09）
幹	事	田中智康（06～09）
幹	事	久芳　仁（06～09）
幹	事	植松信二（06～09）
幹	事	小林寿成（07～10）
幹	事	斉藤美根子（07～10）
幹	事	纐纈健太郎（07～10）
幹	事	佐竹　篤（07～10）
幹	事	川野梨恵（07～10）
幹	事	正木創一（08～11）
幹	事	井上善史（08～11）
幹	事	登ヶ谷祐人（08～11）
幹	事	金子浩二（08～11）
幹	事	内田　修（08～11）
幹	事	成田哲浩（09～12）
幹	事	井上美由紀（09～12）
幹	事	井上明子（09～12）
幹	事	高塚瑞希（09～12）
幹	事	斉藤真規（10～13）
幹	事	長岡福也（10～13）
幹	事	筒井靖子（10～13）
幹	事	杉山祥啓（10～13）
幹	事	大津留真紀（10～13）
幹	事	大友仁美（10～13）
幹	事	佐野京子（12･13）
幹	事	鈴木亜希子（12･13）
幹	事	田崎郁子（11～14）
幹	事	土元夏葉（11～14）
幹	事	竹腰真裕子（11～14）
幹	事	後藤暢宏（11～14）
幹	事	竹村　直（11～14）
幹	事	木下真由美（11～14）
幹	事	若月朋子（11～14）
幹	事	齋藤久美絵（11～14）
幹	事	川村友江（11～14）
幹	事	猪狩博織（11～14）
幹	事	山下政幸（11～14）
幹	事	鈴木さや夏（13･14）
幹	事	川下知恵（12～15）
幹	事	鹿内隼人（12～15）
幹	事	齋藤慎亮（12～15）
幹	事	山本克幸（12～15）
幹	事	拓植由美子（12～15）
幹	事	豊永有美子（12～15）
幹	事	原　順子（12～15）
幹	事	小澤有礼（12～15）
幹	事	大野達男（12～15）
幹	事	太田孝一（13～16）
幹	事	山川利雄（13～16）

国際関係学部　校友会総会

令和二年七月四日(土)十五時三十分からみしまプラザホテルにおいて開催される予定でしたが、今般の新型コロナウイルスの感染リスク拡大の影響を鑑み、中止とさせていただきました。第一議事から第十二議事までを幹事会書類議案とし可否方法により承認となり、会則第五章第十二条第三項に基づき総会承認議事となった。

議事

一　令和元年度事業報告
一　令和元年度決算報告
一　監査報告
一　令和二年度事業計画に関する件
一　令和二年度予算に関する件
一　令和二年度新幹事に関する件
一　役員改選に関する件
一　物産展実行委員に関する件
一　ホームカミングデー実行委員に関する件
一　国際関係学部校友会関係物故者について
一　国際関係学部校友会役員等の正会員加入状況について
一　功労者表彰に関する件
一　校友会会報(第五一号)原稿依頼について
一　その他

議案説明

一　令和元年度事業報告では、国際関係学部校友会会長賞及び優秀賞は卒業生七名と在学生六名に授与された。授与式は卒業生及び在学生共新型コロナウイルス感染の影響のため中止となり賞状等郵送となった。

二　令和元年度決算報告では、決算額は各項目のとおりとなりその内の通品運搬費、雑費の二項目の支出額が多かったのは通品運搬費での会報発送代一一九,〇七一円、雑費でのホームカミングデーチラシ印刷代一九一,八〇八円、日大体育部関係九五,〇〇〇円、総会二次会負担費八〇,〇〇〇円等が増額となりました。

◎会計監査を藤本、木村両氏に令和二年六月二六日に実施して頂いた。

三　令和二年度事業計画では国際関係学部校友会会長賞及び優秀賞の推薦を始めとして前年度とほぼ同様の事業となるが本年度は新入生入学祝として七年間続けて来た携帯用ストラップからメタルクラフトに変更と一六年間続けて来た就職合同面接会を中止した二件となる。

四　令和二年度予算では、令和元年度の決算額を基礎として継続して実施可能な事業費として計上した。

五　令和二年度新幹事等では、今年度新役員として押見恵美子幹事が常任幹事へ、国際関係学部から石川真世以下九名、教養・学部から室伏伯士一名、商経科同窓会から日馬孝昌一名、桜栄会から植松あいか以下三名で計十四名の新役員が増員される。

六　役員改選では、現役員の任期が令和三年三月三十一日付で満了となりますが、事務局への後任者の推薦等が有りませんので現役員の再任となり、任期は令和三年四月一日から令和六年三月三十一日の三年間となります。

七　物産展実行委員では、現委員の継続とし推薦者がいればその都度委員会で追加承認して頂く。

八　ホームカミングデー実行委員では、現委員の継続とし推薦者がいればその都度委員会で追加承認して頂く。

九　国際関係学部校友会関係物故者では、平成三十年八月から令和二年六月までに事務局に連絡を頂いた会員を一覧表とした。

十　国際関係学部校友会正会員加入者名簿では、令和二年三月末日の国際関係学部校友会正会員加入者を本部校友会事務局から頂き一覧表にした。会長からのお願い文も添付しておきましたので令和二年度も引き続き継続願いたい。また新規加入者の振込用紙は**「桜縁」**に添付されています。

十一　功労者表彰では、令和元年十一月で参与の岩崎一雄氏が満八十歳を迎えられました。従来ですと総会当日授与式(賞状及び記念品)を挙行しておりましたが新型コロナ拡大防止により総会中止となった為本人宛送付させて頂きました。

十二　会報(第五十一号)原稿依頼者では、横山会長・濱田副会長・野中顧問・西野・多田・松原各常任幹事・植田山形県支部長の方々に原稿依頼をしたい。

校友会事務局からのお知らせ

◎銀杏並木歩道清掃作業

毎月　第四日曜日　午前九時から
約一時間程度

本校舎西側道路(県道号線)両側銀杏並木歩道清掃作業

集合場所　大学門入って右手

校友の皆様方ご参加をお待ちしております。

◎第七十回富桜祭

令和二年十月三十一日・十一月一日開催予定の富桜祭は新型コロナ感染拡大防止のため「富桜祭ＨＰウェーブ対応」に変更となり、十二月中旬頃動画発信されますのでご覧ください。

同窓会だより

国際関係学部同窓会

令和元年十月五日、第三十六回国際関係学部同窓会総会・懇親会が日本大学国際関係学部三島駅北口校舎にて開催されました。

今年度の同窓会総会・懇親会には約三十名の卒業生来賓の先生方が集いました。

総会では宮下公雄同窓会会長より挨拶があり、その後、事業報告、会計報告と続き、次年度の事業計画が審議されました。

懇親会におきましては渡邊武一郎学部長をはじめ、恩師である先生方と共に会員同士が思い出話に花を咲かせ、一層親睦を深め終始和やかな雰囲気で歓談され、懇親会は閉会となりました。

国際関係学部同窓会

「桜栄会の皆さまへ」

桜栄会会長
平澤 佳代子

桜栄会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年度は、学科創設六十周年、専攻科二十周年の節目の年で、盛大にお祝いが出来ましたことは喜ばしい限りです。桜栄会の歴史の中で、栄養科にとっては、次代を担う管理栄養士を育てる教育課程として専攻科ができ、それも二十年の節目を迎えることができましたこと、仕事をしながら国家試験の突破を目指していた頃が懐かしく思い出されます。

また、三十有余年、衣食住の衣と住を担う家政専攻、生活文化専攻では、人として生きる力を学ぶ学科として、その高邁な有識者を各地に輩出してきたこと、同窓の一人として誠に誇らしく思っているところでございます。

さて、今年は、今まで経験したことのない未知の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、長期にわたる休校や自粛生活等で、なかなか同窓生と会う機会がなく、節目の卒業式、入学式なども規模を縮小して行われました。

どの職域もそうであったと思われますが、私も現在、市の教育委員会の中で、学校給食に関わっておりますが、この春は、コロナ禍のため、慌しく対応する日々でした。

これからは、少しずつ通常に戻していくことが必要だと感じています。そして、十分な対策をとった上で、安心安全な給食が提供できるように今後も対応していきたいと思っております。

最後になりましたが、「〝何を大事にするか〟をいつも念頭においてすすめるとよい」をモットーに、各界で活躍されてこられた方々，現在ご活躍されている皆様，そしてこれからの活躍が期待されている若い方，すべての年代の方々が一同に会し、互いに懇親を通して有意義な情報交換が実りますよう切に願ってご挨拶と致します。

「学ぶ手は止めない」

日本大学短期大学部
食物栄養学科学科長
髙橋 敦彦

校友会、桜栄会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大は、本学短期大学部食物栄養学科の教育活動にも大きな影響を与えています。昭和三十一年に示された大学設置基準第二十五条第一項は、授業の方法について定めていますが、この条項は主に教室等において対面で授業を行うことを想定しています。文部科学省は令和二年五月一日付事務連絡により特例的な措置として、「面接授業に相当する教育効果を有すると大学等が認めるものについては、面接授業に限らず、自宅における遠隔授業や、授業中に課すものに相当する課題研究等（以下「遠隔授業等」という。）を行うなど、弾力的な運用を行うことも認められます。」と通達しました。

当科の卒業生の方々でしたら、本学科の授業・実験・実習がどのように行われているのかについてはよくご存じのことと思いますので詳細は述べませんが、新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み、今年度は講義科目の面接授業は全て中止し、遠隔授業に切り替えました。また、技能，態度を中心として培う演習，実験，実習もオンラインで行うことを原則とし、従来どおりの対面授業でなければ教育効果をあげることが困難な授業を厳選して大学構内での対面授業を行うこととしました。このことにより学生はもとより、教員にとっても大きなパラダイムシフトを強いられることになりました。

新型コロナウイルスという未知なるウイルスに対し如何に①遠隔授業の具体的方法の検討、②実験・実習の遠隔授業はどのように行うのか、③対面授業で行わざるを得ない実験・実習はどの科目か、④対面で実験・実習を行う場合の感染防御方法、⑤学生の心身の健康をどのように保つのかなどについて、私たち教員は令和二年三月からオンラインミーティングを繰り返し行い、議論を進めて参りました。短い期間ではありましたが専任教員はもとより非常勤講師の先生方にもご協力いただきクリアすべき膨大な課題を整理し、対策を練りました。対面授業を行う教員には感染予防対策を織り込んだマニュアルを作成のうえ授業に臨んでいただきました。毎年夏季に行われている臨床栄養学，給食経営管理論の校外実習（臨地実習）は，このコロナ禍で通常業務だけでも大変であろう受け入れ施設の状況から実施困難と懸念いたしましたが，これは杞憂でした。実に多くの施設が日大生を受け入れてくださいました。これもひとえに，社会でご活躍されている本学の卒業生の皆様のおかげと深謝いたします。また，この時期にこの間，大学執行部の先生方，教務課，庶務課，会計課，管財課をはじめ，全部署の関係各位に多大なご協力をいただきましたことにお礼申し上げます。今年度は学生募集活動にも制約が課せられ，オープンキャンパスもオンラインで行いました。学生の実習風景も動画でご覧いただけますので宜しければサイトをご覧ください。

https://www.ir.nihon-u.ac.jp/jc/

何かと不便の多い今日ですが，この状況が一日も早く解消され平穏な日々が戻りますように，皆様のご健康をお祈り申し上げます。

「コロナ禍での校外実習を経験して」

日本大学短期大学部
食物栄養学科准教授
篠原 啓子

今年は、新型コロナウイルスに加えて酷暑の中、学生を栄養士の校外実習に臨ませることとなりました。厳しい状況下で、実習にご対応いただきました卒業生の皆様にはこの場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

本学の校外実習は、現在「臨床栄養学実習」としての病院と、「給食経営管理実習」として事業所、学校、保育園や高齢者施設のいずれかのひとつの施設を合わせて二施設、各五日間ずつ、計十日間の実習となります。「臨床」と「給食経営管理」の二科目の実習は全国でも数校しかありません。実習先を二つ確保し、各施設の実習日の調整をするため最低でも準備にひと月を要します。例年三月より学生の居住地にできるだけ近い実習先に担当教員が電話をかけ、内諾をいただく作業から始まります。東部地区の学生が多い割に受け入れ施設（特に病院）が限られる上に、コロナの感染がどのように広がるか誰にもわからない状況下で、実習先の先生方からは、「学生を受け入れたいと思うけれども判断ができない。」と返事の保留いただくことが多く、五月の連休明けになっても今年は受け入れ先が決まらない状況からスタートしました。担当教員の葛城裕美先生と私で施設先の先生方には無理を承知のお願いをし、なんとか全員決定したのが六月でした。

加えて、例年は実習に出かける前に校外実習に臨む姿勢やマナーなどを、外部講師や施設ごとの管理栄養士・栄養士の先生方、担当教員・助手が事前指導で行います。さらに事前指導の時だけでなく、学生は服装や髪型の指導から必要書類やノートやレポートの書き方など日々の学内生活の中で細かく何度もチェックを受けます。これら指導により、学生間や教員や助手との連絡が密となるため、この過程で学生が抱く校外実習への不安が期待に変わっていきます。しかしながら、この過程は【三密】の状況を生むことになるので今年はすべてオンラインでの指導となりました。オンラインと対面で話すことでは伝わる熱量が大きく違います。私たちのコミュニケーションの約六割が視線や表情、声のトーン、ボディーランゲージなどの非言語によるもので構成されています。これらの非言語の情報はコミュニケーションにおいて非常に重要な要素となりますが、メールやZoomでは十分な情報のやり取りができません。この〝よく分からない〟という状態で学生を校外実習に送り出すのは、私たち教員や助手にとって初めての経験となりました。

栄養士の業務は病院や学校など給食の対象者が異なるため、施設ごとの特徴があり、この点は「臨床栄養学」と「給食経営管理論」の講義の中で学生は学びます。けれども机上での学問と実際に体験する現場での実習は天と地ほどの差があります。県内の他大学は、今年度の校外実習自体を取りやめ、学内で校外実習に代わるカリキュラムを組んで対応するところもあります。その中で、本学は校外実習ができますことは、多くの卒業生の方々が現場で活躍し、ご協力があってのお陰です。慣れない環境の中で、緊張しながらも多くを学び、例年のように後期になると学生の授業や職業に対する姿勢が変わる実習であることを切に願いながら、私たち教員は今年の経験を今後の学生指導に生かすことを考えていきたいと思います。

「実験科目における遠隔授業の実施、その試行錯誤」

日本大学短期大学部
食物栄養学科助教
安西なつめ

新型コロナウイルス感染症に対する警戒が続いています。食物栄養学科では、感染拡大予防策の一つとして、「食品衛生学実験」、「解剖生理学実験」など一部の実験科目を遠隔で実施することを決定しました。

オンライン授業の実施にあたっては、学生の通信面での負担や長時間の電子機器利用による疲労などに考慮しつつ、教材の配布と利用、課題の提出方法など、あらゆる点で授業内容の一新が求められました。各科目によって取り組みは様々ですが、私が担当しております二年生対象の「解剖生理学実験」では、Googleアプリ（Google Meet、Google Classroom、Google Form、スプレッドシート）、YouTube、Zoomなど複数のツールを使い分けて授業を実施しています。たとえば前期に行った運動負荷による脈拍数、体温の変化に関する実験では、遠隔ならではの授業を展開することができました。学生ははじめにGoogle Classroomにアップロードされた資料をダウンロードして各自で実験の内容を予習し、その後Zoomを用いて実験の目的と方法に関する説明を受けた後、正しい脈拍測定の仕方やバイタルサインに関する動画をYouTubeで視聴して実際に脈拍を測定し、結果をすぐにGoogleスプレッドシートに記録しました（このシートは複数人による同時編集が可能なため、学生の作業過程をリアルタイムで確認できるのが利点です）。この後学生は再度Zoomミーティングに参加してカメラをオンにし、リアルタイムで三十分程度の運動指導を受け、自身で体を動かしながら自宅でできる運動の種類と効果を学びました。運動後は各自すみやかに体温と脈拍数を一定時間ごとに測定し、経時的変化を記録してグラフにした上、Google Classroomにレポートを提出しました。

自宅での運動にあたっては、環境や身体状況に十分配慮し、スペースを広くとれない場合や体を大きく動かせない場合には椅子を使用した方法に切り替えるなど工夫しました。学生は普段と異なる運動方法を通じて上肢や下肢に制限がかかった際の運動の程度や負荷の違いについても学ぶことができたようです。また、大学におけるサークル活動の制限やジムなどの施設の閉鎖、体育科目の実施延期などに

より、運動不足を自覚していた学生も少なくない中、自粛生活下における運動の重要性を感じたとの感想を得ました。いずれもスペースや機器の使用という点で不自由のない大学構内での授業では発想されなかった内容かもしれません。何より、遠隔授業を実施している中で、オンライン上においても学生が熱心に授業に取り組む姿を見られたことは教員にとっても喜びでした。

今後も学生の安全と健康を第一に、また、実験科目における技能面の修得という学修目標を意識し、新たな内容で授業を展開すべく創意工夫して参りたいと思います。

「食と未来」

専攻科・十二期

井出心美

私が食物栄養学科に入学を決めたのは、高校生の頃に母が病気で入院したことがきっかけです。当時の私は、まだ食に関しての知識がなく、病気になった母のために何か出来ないか、栄養について学びバランスの整った食事で治療の手助けができるようになりたいと思い、栄養士を志しました。

短期大学部では神戸絹代教授のもとでスポーツ栄養について、専攻科では太田尚子教授のもとで、卵白たんぱく質について研究を行いました。当時は、実験をこなし、論文を完成させることで頭がいっぱいでした。現在、学校の栄養士として勤務していますが、食物アレルギー対応を行う上で、生卵は食べられないが、加熱の卵は食べられるといった事例があります。アレルギーの原因物質であるたんぱく質の変性について対象者に根拠をもって説明でき、専攻科時代の研究が仕事に生かされています。本格的に就職活動を行うまでは、栄養士は調理が主というイメージでした。病院や事業所等で実習をさせていただき、食というのは生活になくてはならないもので、病院だけでなく、学校やスポーツ、美容など、多くの場面で必要とされる仕事だと実感しました。その中でも、私は未来を担う子どもたちに食について興味を持ってほしいと思い、二年間は臨時職員として勤務し、現在は無事採用試験に合格し学校栄養職員として中学校で勤務しています。給食は、何もなく無事に提供できて当たり前、異物混入等で子どもたちに危険が及ばぬよう衛生管理や食物アレルギー対応に日々気を配っています。安心安全な給食を提供することが第一ですが、行事食や地場産物を取り入れ給食を生きた教材として子どもたちが少しでも自分たちの住んでいる地域で採れるもの、郷土料理などを知るきっかけになってほしいと思っています。また、子どもたちから苦手なものが食べられるようになったよ、栄養があるから頑張って食べるよといった声を聞くと励みになりますし、子どもたちの成長を身近で感じることのできるこの仕事にやりがいを感じています。

また、自分自身が母親になるまで、一生懸命食べやすいように工夫をしても野菜を食べない、食事に時間がかかるなど、こんなに子どもの食について悩むことが多いとは思ってもいませんでした。

給食は三食のうちの一食ですが、家庭と連携し子どもたちが健康な食生活を実践する力を養えるよう努めていきたいです。

「食物栄養学科での学び」

専攻科・十二期

杉本愛季

私は平成二十年度に食物栄養学科に入学し、その後専攻科に進学しました。私が栄養士を目指そうと思ったきっかけは、高校生の時の体調不良です。ソフトボール部に所属し、部活動中心の生活を送っていましたが、体調を崩し、二ヶ月もの間、部活動を休まなければいけなくなりました。その原因の一つに食生活があると知り、健康と食生活が大きく関わっていることを知り、栄養学を学びたいと思うようになりました。

大学生活は、実習やレポートに追われ、忙しい毎日でしたが、実験実習をとおして、クラス皆がとても仲良くなり、充実した日々を送ることができました。また、食物栄養学科では、神戸絹代教授のもとでスポーツ栄養について、専攻科では小橋恵津教授のもとで、実験動物を用いて運動と唐辛子の有用性の研究を行いました。実験動物を用いる研究は、命を預かっているので考えさせられることも多く、大変な面もありましたが、とても貴重な経験をさせていただくことができました。また、研究をとおして運動と栄養に携われる仕事がしたいと強く思うようになり、スポーツ会社に就職をしました。栄養士としての仕事では、栄養相談やクッキング教室等を行い、ジムの指導員やインストラクターなどの経験もさせていただきました。

現在はご縁があり、食物栄養学科に戻り、助手として働かせていただいています。主に学生達の実験実習や学生生活のサポートをしています。学生達が研究に励んでいる姿を見ると、私も勉強しよう！というモチベーションに繋がります。助手には任期があるため、満了後には、目標であるスポーツ選手への栄養サポートが行えるよう、公認スポーツ栄養士の資格取得に挑戦しています。現役でスポーツを行なっている小中高生や、アスリート達が過去の自分みたいに体調を崩さず、健康な身体で競技が行えるよう、サポートをしていきたいと考えています。

昨年から、インターンシップとして国際関係学部の女子硬式野球部選手の栄養サポートに入らせていただいています。栄養サポートは、単発の栄養指導よりも長期に渡り、選手達の食生活を見ていくこととなり、一人ひとりに寄り添ったサポートをするためには、まだまだ勉強が必要だと感じることも多くあります。

私は、この食物栄養学科で、学ぶことの楽しさ、学び続けることの大切さを教えていただきました。これからもこの姿勢を忘れず、常に自分の目標に向かって学び続けていきたいと思います。

桜栄会の皆様へ

桜栄会の皆様には、日頃から食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻の教育活動にご理解とご協力を賜わり、心から感謝申し上げます。

さて、今日少子化が進む中、大学への進学希望者は年々減少し、特に短期大学への進学者数は目に見えて減ってきており、本学科も、大変厳しい状況が続いております。幸いにも本学科は、専攻科を開設し、四年制大学と同等の教育や学士（栄養学）の取得、さらに大学院への進学も可能であり、一定の教育水準を維持しています。歴史と伝統を有する本学科の維持・発展を期して、日々の教育・指導に一層努めてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。なお、栄養士資格の取得を希望される受験生や社会人の受験生がおられましたら本学をご案内いただければ幸いです。管理栄養士を目指す在学生の専攻科進学を勧めておりますが、近年では社会人になられた卒業生も、専門的知識や技術を習得し、管理栄養士を目指して本学専攻科に入学されています。また、平成二十三年度より、管理栄養士国家試験対策室を立ち上げ、サポート体制を整備し、合格者を増やしています。なお、下記製菓衛生師コースは他校に比べ安価（一年間十五万円、二年間で国家試験受験資格取得）ですが、しっかりした指導体制で毎年多くの学生が国家試験に合格しています。これは通信制ですので、大学へは、年二回のスクーリングのみの参加です。卒業生の方もチャレンジしてみてはいかがでしょうか。

管理栄養士国家試験対策講座からのお知らせ

第三十五回の管理栄養士国家試験は二月二十八日と例年より一週間早く行われます。今年はコロナ禍で校内への立ち入りが制限されているのでＺｏｏｍを使った対策講座を十月から開催します。従来は月一回午前十時半から十五時頃まで行っていましたが、卒業後仕事と並行しながら勉強するには継続した学習習慣が必要だと考えます。合格のためには過去問題集一冊を少なくとも三回は解くことが大切です。そのため、六十分から九十分程度で週一回くらいを目安に開講を検討しています。問題集は女子栄養大学の「受験必修過去問集」を使用しますのでご用意ください。受講を希望される方は食物栄養学科研究室へお問い合わせください。なお、講座にあわせて模試も大学単位で申し込みをします。

随時、講座には参加できます。試験までの追い込みをがんばろうと思っている方はぜひご参加ください。

学科で卒業生も取得できる資格

《製菓衛生師（国家試験受験資格）》

食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻では、茨城県にある「つくば栄養医療調理製菓専門学校」との連携で、製菓衛生師国家試験受験資格を取得できる通信教育課程を開設しております。製菓衛生師とは、製菓・製パン業務に就く際に取得していることが望ましい唯一の資格で、食に関する資格の中でも人気の高いものです。本学では、二年間の在学中に、通信学習（月一回の課題提出）、夏季と春季のスクーリング（各五日）および指導校研修（一日）により効率的に修得できます。毎年四月から開講します。

《介護職員初任者研修》

介護職員初任者研修は、旧ホームヘルパー二級に該当します。訪問介護員とも呼ばれ、高齢者や心身障害者などの身体の介護や家事サービスを提供し、自宅での自立を支援します。厚生労働者が指定する講座を修了することで修得でき、高齢化社会を迎えニーズの高い資格です。本講座はニチイ学館と連携した本学科単独の通信講座で、食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻を対象にカリキュラムを編成し、開講します。

「フードアナリスト」四級・三級

フードアナリストは、世界各国の食文化や食空間の演出法、テーブルマナーや食育など、「食」に関するあらゆる知識・教養を幅広く学び、食の事ならば何を聞かれても解説できる、何を依頼されても執筆できる「食情報のスペシャリスト」を育成する為の資格です。幅広い知識を身に付けたフードアナリストは、様々な分野で活動し、その活躍が多くのメディアで注目されています。本学にて一日の受講（含む認定試験）で四級の資格が取得可能です。今年度は二月に開講予定です。また、四級の資格を取得した者は、三級受験資格があり、希望者が集まれば本学にて二日間の受講で取得可能です。

食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻 専任教員&助手紹介

〈専任教員〉

学科長　高橋　敦彦（病理学・疾病学）
教授　上田　龍太郎（生物学）
教授　太田　尚子（食品学）
准教授　石川　元康（情報処理演習・公衆衛生学）
准教授　篠原　啓子（栄養教育論）
准教授　葛城　裕美（給食経営管理論）
助教　安西　なつめ（解剖生理学）
助教　柿崎　博美（栄養学）

〈助手〉

助手　杉本　愛季（専攻科・十二期）
助手　藤原　麗（専攻科・十四期）
助手　佐々木里緒（専攻科・十七期）
助手　田畑　礼子（専攻科・十八期）

お問い合わせは、食物栄養学科研究室
ＴＥＬ：〇五五－九八〇－〇八四〇
ＦＡＸ：〇五五－九八〇－〇八四六
E-mail:takahashi.atsuhiko@nihon-u.ac.jp

日本大学国際関係学部校友会会則

第１章　総　　則

（名　称）
第１条　本会は日本大学国際関係学部校友会と称する。
（事務局）
第２条　本会は事務局を静岡県三島市文教町2丁目31番145号に置く。

第２章　目的及び事業

（目　的）
第３条　本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。
（事　業）
第４条　本会は前条目的達成のために次の事業を行う。
　１　会報発行・会員名簿の作成
　２　会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業
　３　母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加
　４　その他目的達成のために必要な諸事業

第３章　会　　員

（会員構成）
第５条　本会は日本大学三島予科・三島教養部・文理学部三島・短期大学部（三島校舎）・専攻科食物栄養専攻・国際関係学部･大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹事会において本会に関係が深く功労があると認められた特別会員・名誉会員並びに準会員である国際関係学部・大学院国際関係研究科･ 短期大学部（三島校舎）の在学生をもって構成する。
　２　特別会員・名誉会員並びに準会員は議決権は有しないものとする。
（会　費）
第６条　会員は規程の定めるところにより、会費を納入しなければならない。
　２　会費及び徴収方法は別に定める。
　３　特別会員・名誉会員は会費を徴収しないものとする。

第４章　役　　員

（役員構成）
第７条　本会に次の役員を置く。
　　会　　長　1名
　　副 会 長　若干名
　　幹 事 長　1名
　　常任幹事　若干名
　　幹　　事　若干名
　　会計監査　2名
（顧問・参与）
第８条　本会は顧問・参与を置くことができる。
　２　顧問・参与は幹事会の議を経て会長が委嘱する。
（役員の選出）
第９条　会長は会長・副会長会議で推薦され、総会にて承認を得るものとする。
　２　副会長は国際関係学部校友会を構成する各同窓会会長或は在学した者の代表者とし会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
　３　幹事長は常任幹事から会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
　４　常任幹事は各科同窓会代表幹事とし、常任幹事から庶務担当・会計担当を幹事長が指名し、会長・副会長会議に報告するものとする。
　５　幹事は国際関係学部校友会表彰者或は各科同窓会会長から推薦し、幹事会に報告するものとする。
（任　期）
第10条　各役員の任期は3年とし、再任は妨げない。ただし満80歳をもって定年とする。なお、期間は当該年度内とする。
　２　欠員が生じたときは、必要に応じて補選し、その任期は前任者の残存期間とする。
　３　任期満了した場合においても、後任者が就任するまでの間その職務を行う。
（役員の職務）
第11条　会長は本会を代表し会務を総括する。
　２　副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
　３　幹事長は事務を統括し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。
　４　常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の遂行にあたる。
　５　幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決にあたる。
　６　顧問・参与は本会の重要事項につき、会長の諮問に応ずるものとする。
　　なお、顧問・参与には役員に関する規定を準用する。

第５章　会　　議

（会議及び議決方法）
第12条　本会の会議は、総会・会長、副会長会議・常任幹事会・幹事会の4種とする。
　2　会議は会長が招集し、議長団はその都度選出する。
　3　やむを得ない場合は、常任幹事会及び幹事会をもって総会に代ることができる。
（会議の構成及び開催）
第13条　本会は目的達成のため下記の機関を置く。
　2　総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。
　　総会は年1回開催するものとし会長がこれを招集する。
　3　常任幹事会は常任幹事以上の役員を以て構成し本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。常任幹事会は必要に応じて随時会長がこれを招集する。常任幹事3分の1以上の要求があった場合はこれを招集しなければならない。
　4　幹事会は総会の代行機関として第14条の事項を付議し、これを議決する。
　　幹事会は年1回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事3分の1以上の要求があった場合は臨時に招集しなければならない。
　5　事務局は幹事長指示のもと会員相互の連絡及び各会議の議事の収録並びに運営に必要な一切の事務を行う。
（総会の審議）
第14条　総会は次の事項を審議し議決する。
　2　会則及び重要規定の制定、改廃に関する事項。
　3　事業計画に関する事項。
　4　予算・決算に関する事項。
　5　会長の選任に関する事項。
　6　その他第4条に基づいて必要と認められた事項。

第６章　支　　部

（支部の設置）
第15条　本会は円滑な発展と交流の促進のために支部を設けることができる。
　2　支部の設置条件及び方法は別に定める。

第７章　会　　計

（会計年度）
第16条　本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
（経費）
第17条　本会の経費は、会費並びに寄付金その他の収入を以てこれを充てる。
（会計監査）
第18条　会計監査は本会会計及び財務について監査し、その結果を総会にて報告する。

第８章　会　　則

（会則変更）
第19条　本会の会則の変更は総会の議を経てこれを決する。
（会則の遵守）
第20条　国際関係学部校友会は日本大学校友会会則及び支部規程を遵守しなければならない。
（施行細則）
第21条　この会則に必要な細則は会長・副会長会議及び常任幹事会の議決を経て会長がこれを施行する。

第９条　表　　彰

（表彰）
第22条　本会の目的及び事業に貢献した者は幹事会の議を経て、これを賞することができる。
　2　卒業予定者及び在学生に対する会長賞等の表彰規定は別に定める。

第10章　除　　名

（会員除名）
第23条　会員が次の事項に該当した行為があったときは幹事会の議を経て除名することができる。
　2　国際関係学部の名誉を傷つけ、また校友としての品位を害する言動があったとき。
　3　校友会の秩序を乱したとき。
　4　故意または重大な過失により校友会に損害を与えたとき。

付　則　本会則は平成23年８月１日より施行する。

日本大学校友会組織図

日本大学校友会(校友会本部事務局)

都道府県支部(65 支部)

北海道ブロック(札幌・旭川・稚内・小樽・帯広・留萌・苫小牧・網走・釧路)
東北ブロック(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・川崎・山梨)
東京ブロック(東京都第一・東京都第二・東京都第三・東京都第四・東京都第五・
東京都第六・東京都第七)
東海ブロック(岐阜・静岡・愛知・三重)
北信越ブロック(新潟・富山・石川・福井・長野・長野北信)
近畿ブロック(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
中国ブロック(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
四国ブロック(徳島・香川・愛媛・高知)
九州ブロック(福岡・北九州・佐賀・長崎・佐世保・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

学部別部会 (18部会)

本部大学院･法･文理･経済･商･芸術･国際関係･危機管理･スポーツ科･理工･生産工･工･医･歯･松戸歯･生物資源科･薬･通信

職域別部会(5部会)

全国桜師会・桜門会計人会・日本大学法曹会・全国桜門スポーツ部会・桜門社長会

桜　門　会

海外特別支部(9支部)

韓国･ブラジル･ロサンゼルス･台湾･サンフランシスコ･スペイン･ニューヨーク･インドネシア･ミャンマー

日本大学国際関係学部校友会組織図

国際関係学部校友会
(旧三島同窓会)

三島豫科
三島教養部
文理学部(三島)

短期大学部
桜文会(国文･英文)
商経科同窓会(1･2部･ビジネス教養)
桜栄会(栄養･家政･食栄･生活･専攻科)
工科同窓会(建築･機械)

国際関係学部同窓会